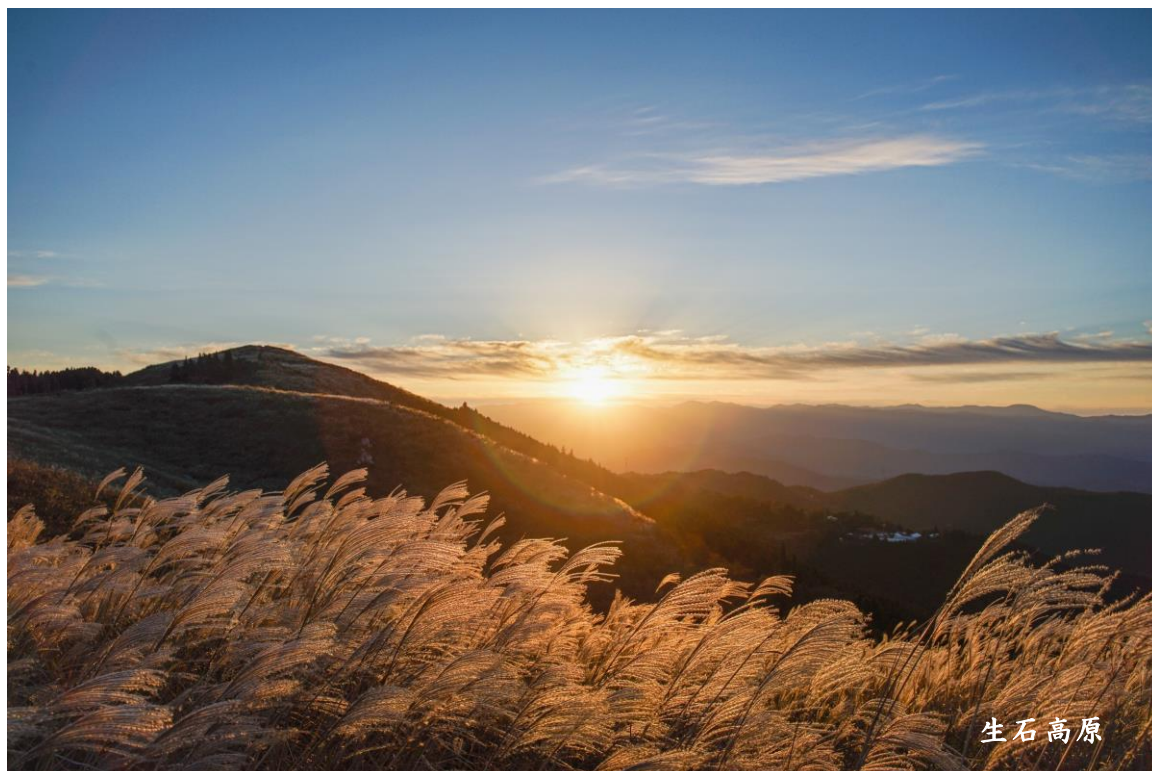


消防年報

令和 3 年版



有田川町消防本部

は じ め に

この消防年報は、当消防本部の消防現況及び令和 3 年中の消防業務に関する諸般の事情を、広角的に収録し消防行政の合理的な運営と消防力の充実強化に資すると共に、消防事情を紹介するために編集したものであります。

もとより十分な内容のものではありませんが、当消防本部についてご理解いただければ、幸甚と存じます。

有 田 川 町 消 防 本 部

目 次

有田川町消防本部の沿革	1～6
管内図	7
一目統計	8
総務関係	
有田川町消防本部の組織と事務機構	9
歴代消防長・消防署長	10
管内の人口及び面積	11
消防庁舎の現況	11
職員の階級及び勤務年数	11
消防予算	12
職員の階級及び年齢構成	13
職員配置状況	14
有資格者数・研修教育等受講者数状況	15
予防関係	
防火対象物の現況	16
建築物同意事務処理状況	17
過去10年間の確認申請同意件数	17
月別同意事務処理状況	18
中高層建物の状況	18
防火管理者選任状況	19
危険物施設の状況	20
月別危険物許可申請	20
消防法・火災予防条例	
権限移譲に基づく各種届出等の状況	21
防火対象物の立入検査状況	22
関係防火団体	23～24
火災予防活動	25

警防関係

消防車両等の配置状況	-----	26～27
機械器具等の現況	-----	28
消防相互応援協定等の状況	-----	29
消防水利の現況	-----	29

通信指令関係

通信概要	-----	30
通信施設系統図	-----	31
消防用無線局系統図	-----	31
119番通報受付件数	-----	32
119番回線受付件数	-----	33
覚知別災害件数	-----	33
デジタル系無線局	-----	34
署活動用無線	-----	34
有田川町の地震情報	-----	35
有田川町の気象	-----	36
月別気象統計	-----	37

火災統計

火災統計について	-----	38
令和3年中の火災発生状況	-----	39
過去10年間の火災発生状況	-----	40～41

救急・救助統計

救急業務について	-----	42
救急出動状況	-----	43
月別出動状況	-----	44
曜日別出動状況	-----	44
時間別搬送人員状況	-----	45
傷病程度と年齢別搬送状況	-----	46

年齢別・性別搬送人員状況	-----	46
医療圏別と年齢別搬送状況	-----	47
診療時間内外における医療圏別搬送状況	-----	47
救急救命士による特定行為の状況	-----	48
心肺停止傷病者数と住民手当の状況	-----	49
PA連携出動状況	-----	49
ドクターヘリコプター	-----	50
有田川町内ドクターヘリ離着陸場	-----	51
普通救命講習等の実施状況	-----	52
救助業務について	-----	53
救助出動状況	-----	54
事故種別出動状況	-----	54

消防団関係

消防団の沿革	-----	55
消防団の組織	-----	56
消防団員数及び装備状況	-----	57
消防団員の勤続年数状況	-----	57
消防団員の階級別年齢状況	-----	58
消防団分団別人員及び車両配備状況	-----	59
消防団消防車両の現勢	-----	60～62
消防団消防車両等経過年数	-----	63
消防団員出動状況	-----	64

有田川町消防本部の沿革

昭和 54 年	4 月	吉備金屋消防組合設立 吉備、金屋両町より職員各 2 名派遣 新規職員 16 名採用 県消防学校初任教育（第 3 期）16 名入校
	6 月	消防庁舎着工
	10 月	吉備金屋消防組合消防本部設立 署長以下 20 名（消防本部職員兼務） 指令車、ポンプ車、救急車 2 台配備
昭和 55 年	2 月	資器材積載車（ダイハツ）配備
	9 月	水槽付ポンプ車（イスズ）配備、C 型救急指令装置本部に設置
昭和 56 年	10 月	開署 2 周年記念式典開催
昭和 57 年	4 月	新規職員 2 名採用 県消防学校初任教育（第 6 期）2 名入校
昭和 58 年	9 月	釜中婦人防火クラブ発足
昭和 59 年	4 月	新規職員 1 名採用 県消防学校初任教育（第 8 期）1 名入校
	6 月	庁舎東側訓練場（248 m ² ）整備
	7 月	開署 5 周年記念総合防災訓練実施
	10 月	資器材積載車（スズキ）配備
昭和 61 年	4 月	上六川婦人防火クラブ発足
	8 月	（財）日本消防協会より救急車（日産）寄贈
	10 月	吉備町、金屋町及び清水町の間において清水町の消防事務を吉備金屋消防組合に編入有田消防組合に改称する基本協定締結（昭和 62 年 4 月 1 日発足）
昭和 62 年	3 月	県農協福祉協会より救急車（日産）寄贈
	4 月	有田消防組合発足 清水消防署庁舎着工 新規職員 12 名採用 県消防学校初任教育（第 11 期）12 名入校 清水町より職員 2 名派遣
	9 月	消防用無線、生石山前進基地局装置及び通信施設設置 清水消防署庁舎完成
	10 月	清水消防署開署 清水消防署に署長以下 11 名、救急車、ポンプ車、積載車、広報車配備 消防用無線、生石山前進基地局装置及び通信施設開局
昭和 63 年	4 月	指令車（トヨタ）吉備金屋消防署に更新配備 本部及び清水消防署にファクシミリ配置
	5 月	地図検索機、本部通信指令室に配置
	8 月	（財）日本消防協会より消防指令広報車（三菱）寄贈を受け本部に配備

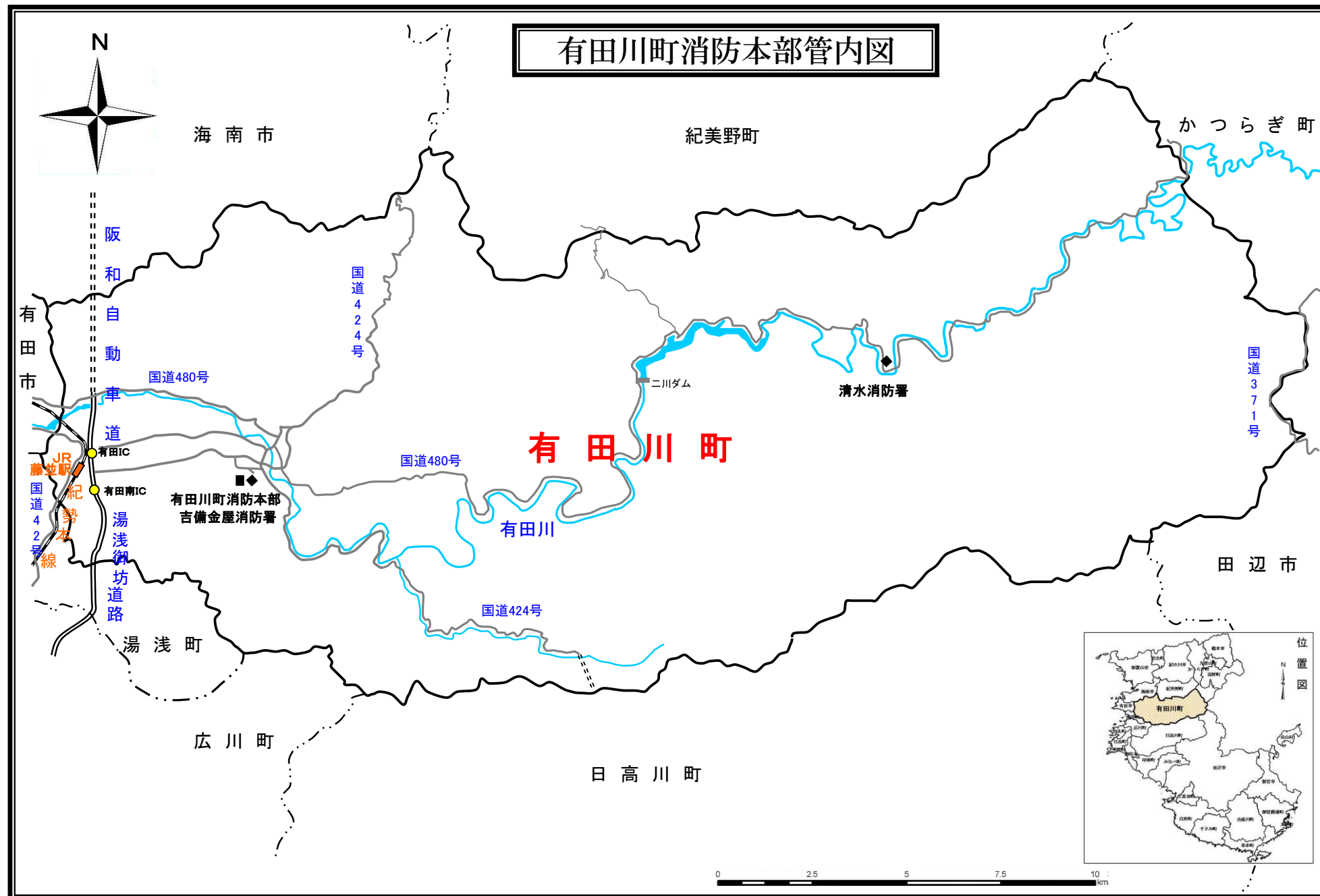
	10 月	清水消防署 1 周年記念訓練大会開催
	12 月	救助工作車（トヨタ）本部に配備
平成元年	4 月	新規職員 2 名採用 県消防学校初任教育（第 13 期）2 名入校 有田消防組合防火委員会発足
	7 月	藤並、田殿、御霊保育所幼年消防クラブ発足 湯川婦人防火クラブ発足
	10 月	開設 10 周年記念式典開催
平成 2 年	1 月	庄婦人防火クラブ発足
	2 月	清水保育所幼年消防クラブ発足
	4 月	県農協福祉協会より救急車（日産）の寄贈を受け清水消防署に配備 新規職員 1 名採用 県消防学校初任教育（第 14 期）1 名入校
	9 月	資器材積載車（ホンダ）清水消防署に配備 押手婦人防火クラブ発足
	10 月	金屋第 1・第 2・第 3 保育園幼年消防クラブ発足
平成 3 年	3 月	災害弱者緊急通報システム運用開始 清水婦人防火クラブ発足
	4 月	新規職員 1 名を採用 県消防学校初任教育（第 15 期）1 名入校
	8 月	庄婦人防火クラブに（財）日本消防協会より小型消防ポンプ寄贈 第 20 回全国消防救助技術大会出場（ほふく救出）
平成 4 年	2 月	ポンプ車（イスズ）吉備金屋消防署に更新配備
	4 月	新規職員 1 名採用 県消防学校初任教育（第 16 期）1 名入校 積載車（マツダ）清水消防署に更新配備
	7 月	可搬式消防ポンプ（B-3 級）清水消防署に配備
	10 月	清水消防署 5 周年記念式典開催
平成 5 年	4 月	新規職員 4 名採用 県消防学校初任教育（第 17 期）4 名入校
	8 月	湯川婦人防火クラブに（財）日本消防協会より可搬式消防ポンプ（C-1 級）軽車 両付交付
	9 月	有田消防組合婦人防火クラブに（財）日本消防協会より防火広報車（トヨタ）交付
平成 6 年	4 月	新規職員 4 名採用 県消防学校初任教育（第 18 期）4 名入校
	6 月	開設 15 周年によりパンフレット（15 年の歩み）を全戸に配布
平成 7 年	1 月	阪神淡路大震災、神戸市へ救助隊員 2 名派遣
	2 月	可搬式消防ポンプ（B-3 級）吉備金屋消防署に配備
	3 月	2B 改良型救急車（日産）吉備金屋消防署に配備 清水消防署 2B 型救急車（日産）車内装備を救急Ⅱ課程仕様に改装
	4 月	新規職員 5 名採用 県消防学校初任教育（第 19 期）5 名入校 北筋婦人防火クラブ発足

	6 月	吉備金屋消防署庁舎、増改築工事開始
	9 月	吉備金屋消防署庁舎、増改築工事完了
平成 8 年	3 月	消防緊急通信指令施設（I 型）運用開始 広報車（トヨタ）消防本部に更新配備
	4 月	新規職員 5 名採用 県消防学校初任教育（第 20 期）5 名入校
	5 月	上中島婦人防火クラブ発足
	9 月	吉備町総合防災訓練（第 1 回）実施 清水消防署、事務所及び仮眠室を改装
	10 月	有田消防組合消防職員委員会発足
平成 9 年	3 月	資器材積載車（スバル）吉備金屋消防署に更新配備
	4 月	新規職員 3 名採用 県消防学校初任教育（第 21 期）3 名入校
	5 月	公用車（トヨタ）消防本部に配備
	10 月	清水消防署 10 周年記念式典開催
	11 月	2B 改良型救急車（トヨタ）清水消防署に更新配備
	12 月	清水消防署開署 10 周年、パンフレット（10 年のあゆみ）を清水町各家庭に配布
平成 10 年	6 月	高規格救急車・救急救命士運用開始 自動車電話・携帯電話からの 119 番通報接続開始
	7 月	広報車（トヨタ）清水消防署に更新配備
平成 11 年	2 月	化学車（イスズ）吉備金屋消防署に配備
	7 月	指令車（トヨタ）、軽四貨物車（スバル）吉備金屋消防署に更新配備
	9 月	ポンプ車（三菱）清水消防署に更新配備
	10 月	有田消防組合開設 20 周年記念式典開催
平成 12 年	4 月	新規職員 1 名採用 県消防学校初任教育（第 24 期）1 名入校
	11 月	（財）日本損害保険協会より救助工作車Ⅱ型（日野）寄贈を受け本部に更新配備 生石基地局無線設備更新
平成 13 年	2 月	軽四小型ポンプ積載車（スズキ）清水消防署に配備
	4 月	新規職員 1 名採用 県消防学校初任教育（第 25 期）1 名入校
	7 月	（財）救急振興財団より心肺蘇生訓練用シミュレーター等助成交付
	10 月	（財）日本防火協会より消火器使用法訓練装置助成交付
平成 14 年	4 月	新規職員 3 名採用 県消防学校初任教育（第 26 期）3 名入校
	9 月	（財）日本防火協会より婦人防火クラブ員普通救命モデル地域の指定
平成 15 年	3 月	積載車（マツダ）清水消防署に更新配備
	7 月	可搬式消防ポンプ（C-1 級）吉備金屋消防署ポンプ車に更新積載
	8 月	吉備町、金屋町、清水町、有田消防組合合同による総合防災訓練を実施

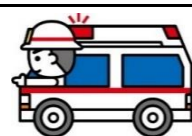
平成 16 年	4 月	消防本部・消防署の機構組織改正（本部 3 課、署警備 2 班に変更）
平成 17 年	2 月	高規格救急車（トヨタ）清水消防署に更新配備
	3 月	救急救命士が行う救急救命処置（気管挿管）運用開始
	12 月	有田消防組合解散
平成 18 年	1 月	吉備町、金屋町、清水町の合併に伴い新町「有田川町」誕生 有田消防組合から有田川町消防本部に名称変更
	3 月	宇井苔婦人防火クラブ解散
	10 月	清水消防署 3 部制移行
	11 月	救急救命士が行う救急救命処置（薬剤投与）運用開始
平成 19 年	2 月	清水消防署敷地内に防火水槽（40 t）設置
	4 月	新規職員 4 名採用 県消防学校初任教育（第 31 期）3 名入校
	8 月	第 36 回全国消防救助技術大会出場（ロープブリッジ渡過）
	9 月	和歌山県総合防災情報システム運用開始（指令室） 防火服セパレートタイプに変更
	10 月	清水消防署開署 20 周年
		吉備金屋消防署 3 部制移行
	12 月	ポンプ車（トヨタ）吉備金屋消防署に更新配備 災害弱者緊急通報システム受信装置更新
平成 20 年	1 月	清水消防署に非常電源設備（自家発電装置）設置
	2 月	高規格救急車（トヨタ）吉備金屋消防署に更新配備
	4 月	軽四貨物資器材搬送車（スズキ）吉備金屋消防署に配備
	5 月	住宅用火災警報器普及隊発隊
	12 月	軽四小型ポンプ積載車（ダイハツ）吉備金屋消防署に更新配備
平成 21 年	3 月	上中島婦人防火クラブ解散
	4 月	新規職員 2 名採用 県消防学校初任教育（第 33 期）2 名入校
	8 月	資器材人員搬送車（日産）消防本部に更新配備
	9 月	軽四貨物資器材搬送車（スズキ）清水消防署に更新配備
平成 22 年	3 月	釜中婦人防火クラブ解散
	4 月	新規職員 2 名採用 県消防学校初任教育（第 34 期）2 名入校
	6 月	潜水隊発隊
平成 23 年	1 月	指揮車（三菱）吉備金屋消防署に更新配備
	3 月	東日本大震災に伴い緊急消防援助隊として延べ 10 名を宮城県石巻市に派遣
	6 月	全国消防職員意見発表会出場
	12 月	高規格救急車（トヨタ）吉備金屋消防署に更新配備
平成 24 年	4 月	新規職員 2 名採用 県消防学校初任教育（第 36 期）2 名入校
	7 月	清水消防署駐車場・訓練場造成工事開始
	8 月	第 41 回全国消防救助技術大会出場（はしご登はん）

	11 月	清水消防署駐車場・訓練場造成工事完了
平成 25 年	3 月	湯川婦人防火クラブ解散
	4 月	新規職員 3 名採用 県消防学校初任教育（第 37 期）3 名入校
	11 月	救急振興財団より救急普及啓発広報車（日産）寄贈を受け本部に配備
	12 月	新消防庁舎（消防本部・吉備金屋消防署・訓練場・ヘリポート）竣工式、業務開始 高機能消防指令システムの導入
平成 26 年	4 月	タンク車（日野）吉備金屋消防署に更新配備 新規職員 1 名採用 県消防学校初任教育（第 38 期）1 名入校
	7 月	救急救命士が行う処置（心停止前輸液、血糖測定、ブドウ糖投与）運用開始
平成 27 年	3 月	消防救急デジタル無線（活動波）運用開始
	4 月	消防団事務が消防本部に移行 新規職員 3 名採用 県消防学校初任教育（第 39 期）2 名入校
	7 月	高規格救急車（トヨタ）清水消防署に更新配備
	8 月	第 44 回全国消防救助技術大会出場（はしご登はん）
	12 月	資機材搬送車（日野）吉備金屋消防署に配備
平成 28 年	3 月	田殿、御霊保育所閉鎖統合に伴い幼年消防クラブ解散
	4 月	新規職員 5 名採用 県消防学校初任教育（第 40 期）5 名入校 きび森の保育所幼年消防クラブ発足
	8 月	第 45 回全国消防救助技術大会出場（ロープ応用登はん、ロープブリッジ渡過） 広報車（スズキ）清水消防署に配備
平成 29 年	3 月	救助工作車Ⅱ型（日野）吉備金屋消防署に更新配備
	4 月	新規職員 2 名採用 県消防学校初任科（第 41 期）2 名入校
	8 月	第 46 回全国消防救助技術大会出場（ロープブリッジ渡過）
	12 月	災害対策車（トヨタ）吉備金屋消防署に配備
平成 30 年	3 月	庄婦人防火クラブ解散
	4 月	新規職員 4 名採用 県消防学校初任教育（第 42 期）4 名入校
	7 月	西日本豪雨災害に伴い緊急消防援助隊として延べ 9 名を広島県広島市に派遣
	11 月	ポンプ車（日野）清水消防署に更新配備
平成 31 年	4 月	新規職員 4 名採用 県消防学校初任教育（第 43 期）4 名入校 和歌山県防災航空隊へ 1 名派遣
令和元年	12 月	高規格救急車（トヨタ）吉備金屋消防署に更新配備
令和 2 年	4 月	新規職員 4 名採用 県消防学校初任教育（第 44 期）4 名入校
	9 月	軽四公用車（スズキ）吉備金屋消防署に更新配備

令和 3 年	1 月	軽四小型ポンプ積載車（ダイハツ）清水消防署に更新配備
	3 月	上六川婦人防火クラブ解散
	4 月	新規職員 2 名採用 県消防学校初任教育（第 45 期）2 名入校
	6 月	日本消防協会より防災活動車（日産）交付を受け本部に配備



一 目 統 計

 和歌山県			 予算
面 積	人 口	世帯数	消防予算
351.84 k m ² 東西 33km 南北 16km	25,909人 (住民基本台帳数値) 消防職員1人当たり 386.7人	10,670世帯 (住民基本台帳数値) 消防職員1人当たり 159.2世帯	747,209千円 (3年度) 町民1人当たり 28,839円
			
署 数	職員数	消防団員数	消防団車両
消防本部 1本部 4課 消 防 署 2署	定員 71人 実員 67人	団 1団 3支団 28分団 定員 950人 実員 919人	ポンプ車 5台 小型動力ポンプ [※] 積載車 80台 小型動力ポンプ [※] 83台
			
火災件数 ※1	救急件数 ※1	救助件数 ※1	119番通報受付 ※1
22件 (内訳) 建物火災 13件 林野火災 5件 車両火災 1件 その他火災 3件 【出火原因】 ① 機械器具類 4件 ② たき火 3件 ② その他 15件	出動件数 1,236件 搬送件数 1,147件 搬送人員 1,156人 【救急事故種別】 ① 急 病 789件 ② 一般負傷 212件 ③ 交通事故 91件 ④ その他 144件	出動件数 11件 活動件数 7件 救助人員 8人 【救助事故種別】 ① 交通事故 4件 ② 水難事故 2件 ③ 機械による事故1件 ④ その他 4件	1,863件 (内訳) 火 災 13件 救 急 845件 救 助 10件 そ の 他 11件 (災害件数とは異なります) 災害以外 984件
			
防火対象物数	危険物施設数	防火団体	
803対象物 (内訳) 特定用途防火対象物 408対象物 非特定防火対象物 395対象物	90施設 (内訳) 貯蔵所 48施設 取扱所 42施設	幼年消防クラブ (6クラブ) 514人 婦人防火クラブ (3クラブ) 78人	
			
消防車両等(消防署)			
ポンプ車 2台 小型ポンプ積載車 2台 タンク車 1台 救助工作車 1台	指揮車 1台 広報車 2台 救急普及啓発車 1台 資機材搬送車 3台	高規格救急車 3台 予備非常用車両 2台 消防団指揮車 1台 災害対策車 1台	その他 2台

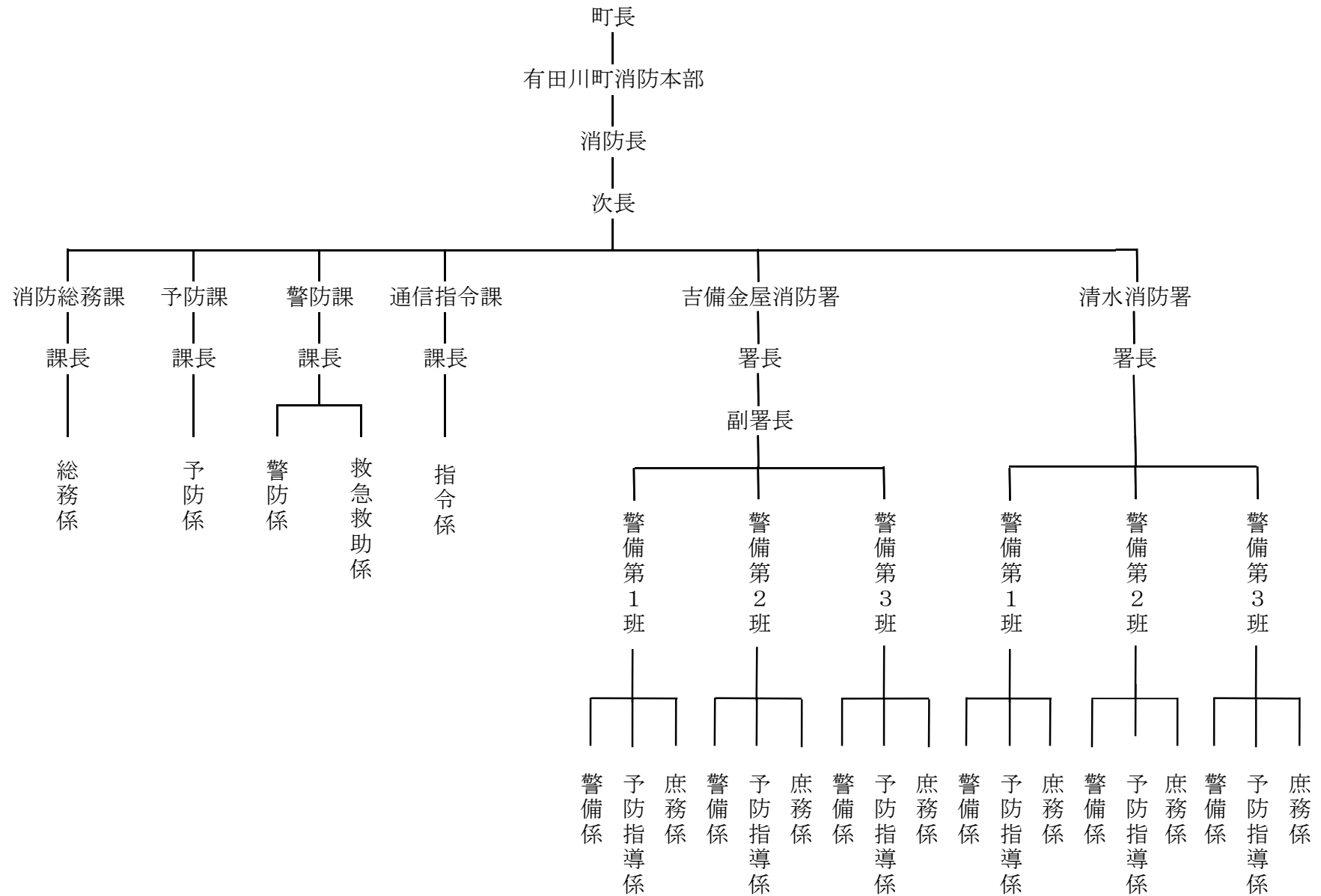
(令和3年12月31日現在 ただし※1は令和3年中)

総務関係



防災学習室

有田川町消防本部の組織と事務機構



歴 代 消 防 長

在 任 期 間	氏 名
昭和54年10月 1日～昭和55年 9月30日	坂 井 隆 雄 (吉備町長)
昭和55年10月 1日～平成 3年 3月31日	上 中 治
平成 3年 4月 1日～平成 5年 3月31日	笠 松 馨
平成 5年 4月 1日～平成14年 3月31日	助 田 勝
平成14年 4月 1日～平成17年12月31日	林 正 信
平成18年 1月 1日～平成20年 3月31日	片 畑 昌 宙
平成20年 4月 1日～平成27年 3月31日	前 田 英 幸
平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日	上 嶋 敏 之
平成28年 4月 1日～令和 2年 3月31日	栗 栖 誠
令和 2年 4月 1日～現在	中 裕 準

歴 代 消 防 署 長

吉備金屋消防署

在 任 期 間	氏 名
昭和54年10月 1日～昭和59年 3月31日	上 中 治
昭和59年 4月 1日～昭和61年 6月30日	伏 鹿 善 夫
昭和61年 7月 1日～平成 3年 3月31日	笠 松 馨
平成 3年 4月 1日～平成 4年 3月31日	反 保 欽 敏
平成 4年 4月 1日～平成 5年 3月31日	助 田 勝
平成 5年 4月 1日～平成 6年 6月30日	生 駒 英 夫
平成 6年 7月 1日～平成 7年 3月31日	板 谷 宗 和
平成 7年 4月 1日～平成12年 3月31日	嶋 崎 篤 生
平成12年 4月 1日～平成12年 9月30日	西 岡 清
平成12年10月 1日～平成15年 3月31日	山 本 和 寛
平成15年 4月 1日～平成20年 3月31日	前 田 英 幸
平成20年 4月 1日～平成21年12月31日	竹 鼻 種 一
平成22年 1月 1日～平成25年12月31日	栗 栖 誠
平成26年 1月 1日～平成29年 3月31日	高 垣 秀 行
平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日	谷 口 佳 久
平成30年 4月 1日～令和 2年 3月31日	高 井 永 行
令和 2年 4月 1日～現在	近 西 優 彰

清 水 消 防 署

在 任 期 間	氏 名
昭和62年10月 1日～平成 6年 3月31日	林 靖 雄
平成 6年 4月 1日～平成 6年 7月31日	福 本 勝 次
平成 6年 8月 1日～平成11年 6月30日	柴 垣 好 彦
平成11年 7月 1日～平成17年12月31日	弓 庭 一 太
平成18年 1月 1日～平成27年 3月31日	上 嶋 敏 之
平成27年 4月 1日～平成29年 3月31日	谷 口 佳 久
平成29年 4月 1日～平成31年 3月31日	高 垣 忠
平成31年 4月 1日～令和 2年 3月31日	三 田 正 和
令和 2年 4月 1日～現在	和 田 章

管内の人口及び面積

(令和3年12月31日現在)

	面積(km ²)	人口(人)	世帯数	1km ² 当りの人口	前年人口との比較
有 田 川 町	351.84	25,909	10,670	73.6	-195

消防庁舎の現況

	有 田 川 町 消 防 本 部		清 水 消 防 署
	吉 備 金 屋 消 防 署		
所 在 地	有田郡有田川町庄1042番地		有田郡有田川町清水322番地1
構 造	鉄筋コンクリート2階建(基礎免震)		鉄筋コンクリート2階建
建 築 年 月 日	平成25年11月30日		昭和62年9月10日
面 積	敷 地	13,906m ²	819.625m ²
	1 F	1,209m ²	241.2m ²
	2 F	1,213m ²	235.2m ²
	P H		12.3m ²
	延 面 積	2,422m ²	488.7m ²
訓 練 塔	鉄筋コンクリート造 高さ21m		鉄骨造 高さ10m

職員の階級及び勤務年数

(令和3年12月31日現在)

階級別 勤務年数	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	合計
1 年 未 満						2	2
1 年 以 上 3 年 未 満						8	8
3 年 以 上 5 年 未 満						6	6
5 年 以 上 10 年 未 満					5	7	12
10 年 以 上 15 年 未 満				4	3	1	8
15 年 以 上 20 年 未 満			2	1			3
20 年 以 上 25 年 未 満			4	1			5
25 年 以 上		6	14				20
35 年 以 上	1	2					3
合 計	1	8	20	6	8	24	67

消 防 予 算

令和3年度当初予算

(単位 千円)

有田川町 一般会計 予 算 額	消防費	内 訳						一般会計
		常 備 消防費	非常備 消防費	消 防 施設費	水防費	災 害 対策費	自 治 防犯費	消防費の 比較(%)
16,520,000	747,209	571,667	92,432	41,033	363	39,403	2,311	4.5%

令和2年度決算

(単位 円)

消 防 費	予算現額	支出済額	繰越明許費	不用額
	1,590,011,415	1,485,045,278	2,200,000	102,766,137

職員の階級及び年齢構成

(令和3年12月31日現在)

階級別 年齢別	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	合 計
18歳以上 20歳未満						1	1
20歳 " 22歳 "						5	5
22歳 " 24歳 "						8	8
24歳 " 26歳 "						6	6
26歳 " 28歳 "						2	2
28歳 " 30歳 "					1	1	2
30歳 " 32歳 "					3		3
32歳 " 34歳 "				1	1	1	3
34歳 " 36歳 "					3		3
36歳 " 38歳 "				3			3
38歳 " 40歳 "			3	1			4
40歳 " 42歳 "							
42歳 " 44歳 "			3	1			4
44歳 " 46歳 "			7				7
46歳 " 48歳 "			6				6
48歳 " 50歳 "							
50歳 " 52歳 "							
52歳 " 54歳 "		2	1				3
54歳 " 56歳 "							
56歳 " 58歳 "		4					4
58歳 " 60歳 "		2					2
60歳以上	1						1
合 計	1	8	20	6	8	24	67

職員の配置状況

(令和3年12月31日現在)

階級別 所屬別		消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	配置人数 ()内は兼任数	
条 例 定 数 (71)		階 級 別 定 数 無							
消防本部	消 防 長	1						1	
	次 長		1					1	
	消 防 総 務 課		1	2	3(3)		6(3)	12(6)	
	予 防 課		1	1	1(1)	2(2)	6(5)	11(8)	
	警 防 課		1	2	1(1)	2(2)	4(4)	10(7)	
	通 信 指 令 課		2	1	1		2	6	
	防 災 航 空 隊 派 遣					1		1	
吉備 金屋 消防署	署 長		1					1	
	副 署 長			1				1	
	本 部 兼 任							0	
	警備第1班	班 長			1				1
		副 班 長			1				1
		班 員			1	1	2	4	8
	警備第2班	班 長			1				1
		副 班 長			1				1
		班 員				2	1	4	7
	警備第3班	班 長			1				1
副 班 長				1				1	
班 員					2	1	4	7	
清水 消防署	署 長		1					1	
	副 署 長							0	
	警備第1班	班 長			1				1
		副 班 長			1				1
		班 員					1	2	3
	警備第2班	班 長			1				1
		副 班 長			1				1
		班 員					1	2	3
	警備第3班	班 長			1				1
		副 班 長			1				1
班 員						1	2	3	
実 員		1	8	20	6	8	24	67(21)	

※消防本部配置人員()内の数字は吉備金屋消防署員と兼任している職員数を表示しています。

有資格者数・研修教育等受講者数状況

(令和3年12月31日現在)

所 有 資 格			所有人数
資 格	普 通 自 動 車 運 転 免 許		67
	中 型 自 動 車 運 転 免 許		24
	大 型 自 動 車 運 転 免 許		32
	小 型 船 舶 操 縦 士		32
	潜 水 士		19
	移 動 式 クレーン 運 転 士		31
	玉 掛 技 能 者		32
	ガス溶接技能講習修了		29
	アーク溶接特別教育修了		1
	足場組み立て等作業主任		2
	酸欠・硫化水素作業主任者		5
	第2級陸上特殊無線技士		66
	消 防 設 備 士	甲 種	7
		乙 種	8
	危 険 物 取 扱 者	甲 種	1
		乙 種	28
	予 防 技 術 資 格 者	防 火 査 察	27
		危 険 物	16
		消 防 用 設 備 等	12
	救 急 救 命 士		23
	気 管 挿 管 認 定 救 急 救 命 士		22
	薬 剤 投 与 認 定 救 急 救 命 士		21

研 修 教 育 等			受講人数
研 修 教 育 等	和歌山県 山田町 市議会 議員	監 督 者 1 次 研 修	8
		監 督 者 2 次 研 修	1
		管 理 者 研 修	2
		法 制 執 務 研 修	16

研 修 教 育 等			受講人数
研 修 教 育 等	和歌山県 消防学校	初 級 幹 部 科	15
		中 級 幹 部 科	8
		上 級 幹 部 科	3
		予 防 科	6
		火 災 原 因 調 査 科	14
		予 防 査 察 科	6
		警 防 科	18
		特 殊 災 害 科	7
		水 難 ・ 潜 水 教 育	7
		自 然 災 害 対 応 教 育	6
		消防操法指導員教育	5
		救 急 I ・ II 課 程 修 了	31
		救 急 標 準 課 程 修 了	12
		救 急 科	34
		救 助 科	20
	神 戸 市 消防学校	予 防 査 察 課 程	1
		火 災 原 因 調 査 課 程	6
		特 殊 災 害 課 程	5
		機 械 課 程	12
		警 防 指 揮	2
		救 助 課 程	7
	消 防 大 学 校	幹 部 科	3
		上 級 幹 部 科	1
		警 防 科	2
		救 急 科	1
		救 助 科	1
	兵 庫 県 消防学校	警 防 科	3
		災 害 現 場 指 揮 科	2
		予 防 査 察 科	2
		危 険 物 科	1
	安 全 運 転 中 央 研 修 所 緊急自動車運転技能者課程		22
	東 京 消 防 庁 研 修		23
	堺 市 消 防 局 研 修		12
	三 重 県 消 防 学 校 水 難 救 助 課 程		6
	海 洋 研 究 開 発 機 構 潜 水 技 術 研 修		5

予防関係



幼年消防クラブ防火写生

防火対象物の現況

(令和3年12月31日現在)

令 別 表 第 一 区 分				署 別 等	吉 備 金 屋 消 防 署	清 水 消 防 署	棟 数 （ 合 計 ）
1	イ	劇場・映画館等			1	－	1
	ロ	公会堂・集会場等			51	23	74
2	イ	キャバレー・カフェ・ナイトクラブ等			－	－	－
	ロ	遊技場・ダンスホール			5	－	5
	ハ	風俗営業等を営む店舗			－	－	－
	ニ	カラオケボックス等			1	－	1
3	イ	料理店			－	－	－
	ロ	飲食店			111	9	120
4		百貨店・マーケット・店舗等			46	－	46
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所			7	11	18
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅			69	1	70
6	イ	病院、診療所 又は助産所	(1) 病院(特定診療科名を有するもの等)		5	－	5
			(2) 診療所(特定診療科名を有するもの等)		1	－	1
			(3) (1)以外の病院、入院施設を有する診療所等		－	－	－
			(4) 診療所、助産所(入院施設を有しないもの)		21	2	23
	ロ	自力避難困難者 入所施設等	(1) 老人短期入所施設、老人ホーム等		13	1	14
			(2) 救護施設		－	－	－
			(3) 乳児院		－	－	－
			(4) 障害児入所施設		－	－	－
			(5) 障害者支援施設		4	－	4
	ハ	福祉・支援施設等	(1) 老人デイサービス等		2	－	2
			(2) 更生施設		－	－	－
			(3) 助産施設、保育所等		9	1	10
			(4) 児童発達支援センター等		3	－	3
			(5) 身体障害者支援センター等		13	－	13
	ニ	幼稚園・養護学校等			－	－	－
7		小、中、高、大学校・各種学校			30	9	39
8		図書館・博物館・美術館			1	－	1
9	イ	公衆浴場のうち蒸気、熱気浴場の類			－	－	－
	ロ	イに掲げる浴場以外の公衆浴場			1	1	2
10		車両の停車場			1	－	1
11		神社・寺院・教会の類			8	－	8
12	イ	工場・作業場等			78	7	85
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ			－	－	－
13	イ	自動車車庫・駐車場			5	－	5
	ロ	飛行機の格納庫			－	－	－
14		倉庫			56	1	57
15		前各号に該当しない事業所			87	16	103
16	イ	特定防火対象物の存する複合用途対象物			59	9	68
	ロ	イ以外の複合用途対象物			16	1	17
16の2		地下街			－	－	－
16の3		準地下街			－	－	－
17		重要文化財			6	1	7
18		50メートル以上のアーケード			－	－	－
19		指定山林			－	－	－
合 計					710	93	803

※消防法に規定する防火対象物の内、第17条に規定する消防用設備等の設置義務のあるもの

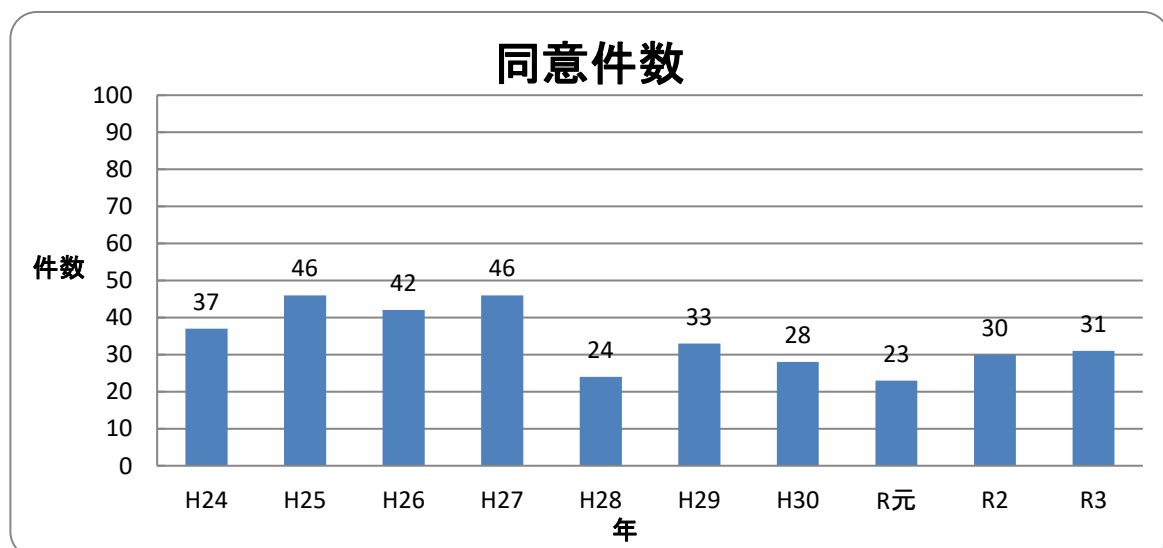
建築物同意事務処理状況

(令和3年中)

工 事 別 用 途 別	新 築	増 築	その他	署 別		合 計
				吉備金屋 消防署	清 水 消防署	
公会堂・集会場等	-	-	-	-	-	-
遊技場等	-	-	-	-	-	-
飲食店・料理店	1	-	-	1	-	1
百貨店・マーケット等	2	-	-	2	-	2
ホテル・共同住宅等	-	-	-	-	-	-
病院・診療所	1	-	-	1	-	1
養老施設・福祉施設等	1	-	-	1	-	1
各種学校	-	-	-	-	-	-
博物館・美術館・図書館	-	-	-	-	-	-
公衆浴場	-	-	-	-	-	-
車両の停車場等	-	-	-	-	-	-
神社・寺院	-	-	-	-	-	-
工場・作業場	3	-	-	3	-	3
自動車車庫・駐車場等	-	-	-	-	-	-
倉庫	4	-	-	4	-	4
前各号に該当しない事業所	6	-	-	6	-	6
複合用途防火対象物	-	-	-	-	-	-
一般住宅	13	-	-	13	-	13
工作物	-	-	-	-	-	-
合 計	31	-	-	31	-	31

過去10年間の確認申請同意件数

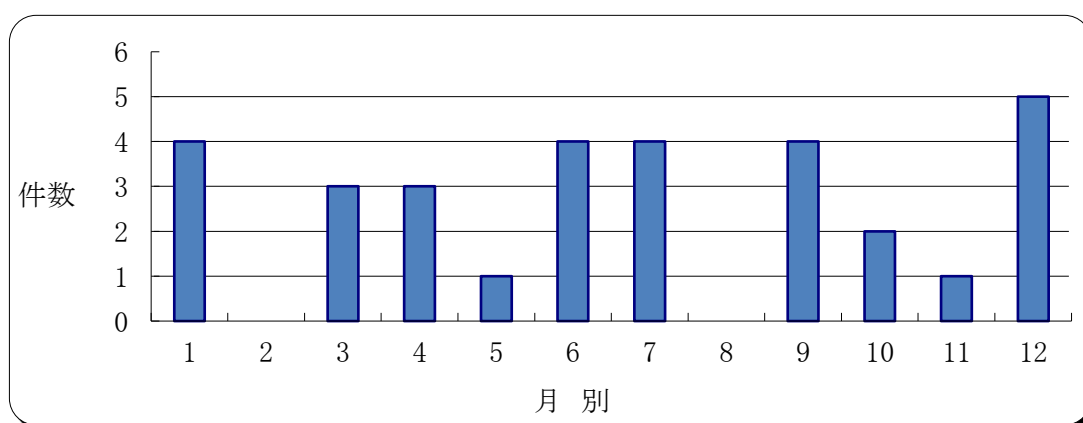
年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
同意件数	37	46	42	46	24	33	28	23	30	31



月別同意事務処理状況

(令和3年中)

月別 種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
新築	4	-	3	3	1	4	4	-	4	2	1	5	31
増築	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
改築	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
増改築	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
用途変更	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	4	0	3	3	1	4	4	0	4	2	1	5	31



中高層建物の状況

(令和3年12月31日現在)

階数	4	5	6	7
	階	階	階	階
建築物数	20	5	1	1

防火管理者選任状況

(令和3年12月31日現在)

令別表第一区分 署別等			署 別				合 計	
			吉備金屋消防署		清水消防署			
			義務有	選任済	義務有	選任済	義務有	選任済
1	イ	1	－	－	－	1	－	
	ロ	49	36	21	21	70	57	
2	イ	－	－	－	－	－	－	
	ロ	4	4	－	－	4	4	
	ハ	－	－	－	－	－	－	
	ニ	1	1	－	－	1	1	
3	イ	－	－	－	－	－	－	
	ロ	18	14	1	1	19	15	
4		36	33	－	－	36	33	
5	イ	3	3	4	4	7	7	
	ロ	9	9	－	－	9	9	
6	イ	(1)	5	5	－	－	5	5
		(2)	1	1	－	－	1	1
		(3)	－	－	－	－	－	－
		(4)	7	7	－	－	7	7
	ロ	(1)	13	13	1	1	14	14
		(2)	－	－	－	－	－	－
		(3)	－	－	－	－	－	－
		(4)	－	－	－	－	－	－
		(5)	2	2	－	－	2	2
	ハ	(1)	1	1	－	－	1	1
		(2)	－	－	－	－	－	－
		(3)	9	9	1	1	10	10
		(4)	2	2	－	－	2	2
		(5)	6	6	－	－	6	6
	ニ		－	－	－	－	－	－
7		26	26	4	4	30	30	
8		1	1	－	－	1	1	
9	イ	－	－	－	－	－	－	
	ロ	1	1	1	1	2	2	
10		－	－	－	－	－	－	
11		3	3	－	－	3	3	
12	イ	14	13	1	1	15	14	
	ロ	－	－	－	－	－	－	
13	イ	1	1	－	－	1	1	
	ロ	－	－	－	－	－	－	
14		2	2	－	－	2	2	
15		19	18	3	3	22	21	
16	イ	32	30	8	8	40	38	
	ロ	6	6	1	1	7	7	
16の3		－	－	－	－	－	－	
16の3		－	－	－	－	－	－	
17		1	1	－	－	1	1	
18		－	－	－	－	－	－	
19		－	－	－	－	－	－	
合 計		273	248	46	46	319	294	

危険物施設の状況

(令和3年12月31日現在)

施設別			署別	5 倍 以下	1 0 倍 を 超 え	5 0 倍 を 超 え	1 0 倍 を 超 え	1 5 0 倍 を 超 え	1 0 倍 を 超 え	2 0 0 倍 を 超 え	1 2 0 0 倍 を 超 え	5 1 0 0 倍 を 超 え	1 5 0 0 倍 を 超 え	1 0 0 0 倍 を 超 え	合 計	立 入 検 査	
製造所				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
貯蔵所	屋内貯蔵所	吉 備 金 屋 署	5	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	1	
		清 水 署	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	
	屋外貯蔵所	吉 備 金 屋 署	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
		清 水 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	屋内タンク貯蔵所	吉 備 金 屋 署	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	
		清 水 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	地下タンク貯蔵所	吉 備 金 屋 署	9	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	1	
		清 水 署	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	
	簡易タンク貯蔵所	吉 備 金 屋 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		清 水 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	移動タンク貯蔵所	吉 備 金 屋 署	9	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	12	10	
		清 水 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	屋外タンク貯蔵所	吉 備 金 屋 署	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
		清 水 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小 計			30	9	6	3	-	-	-	-	-	-	-	48	15		
取扱所	給油取扱所 (営業所)	吉 備 金 屋 署	-	-	-	5	2	2	3	-	-	-	-	12	4		
		清 水 署	-	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	4	2		
	自家給油取扱所	吉 備 金 屋 署	1	2	9	-	-	-	-	-	-	-	-	12	1		
		清 水 署	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-		
	第一種販売取扱所	吉 備 金 屋 署	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-		
		清 水 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第二種販売取扱所	吉 備 金 屋 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		清 水 署	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	一般取扱所	吉 備 金 屋 署	4	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	2	
		清 水 署	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
小 計			6	4	17	5	4	3	3	-	-	-	-	42	9		
合 計			36	13	23	8	4	3	3	-	-	-	-	90	24		

月別危険物許可申請

(令和3年中)

種別 \ 月別	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
設置許可	1	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
変更許可	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	-	6
仮使用承認	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	-	5
完成検査	1	-	1	1	-	-	-	1	1	-	3	1	9
合 計	3	-	2	1	-	-	-	1	5	2	9	1	24

消防法・火災予防条例・権限移譲に基づく各種届出等の状況

(令和3年中)

届 出 区 分		件 数	吉備 金屋 署管内	清水 署管内	件 数 (合計)
消 防 法	圧縮アセチレン・LPガス等届出		15	-	15
	防火管理者選任・解任届出		32	7	39
	消防計画作成・変更届出		60	7	67
	消防用設備着工届出・設置届出		58	2	60
	消防用設備点検結果報告		311	55	366
	防火対象物定期点検報告		15	1	16
	自衛消防訓練届出		145	21	166
火 災 予 防 条 例 関 係	炉・厨房設備・ボイラー等の火気使用届出		3	-	3
	燃料電池・変電・発電・蓄電池設備届出		12	2	14
	少量危険物・指定可燃物貯蔵取り扱い届出(廃止も含む)		8	1	9
	ネオン管灯設備設置届出		-	-	-
	防火対象物使用開始(変更)届出		12	2	14
	道路工事・水道断減水届出		103	21	124
	煙火の打ち上げ仕掛け届出		9	1	10
	催し物開催届出		1	-	1
	水素ガスを充てんする気球の設置届出		-	-	-
	露店開設届出		7	1	8
	火災と紛らわしい煙又は火炎を発するおそれのある行為の届出		66	9	75
火薬類取締法関係			20	-	20
高圧ガス保安法関係			8	-	8
液化石油ガスの保安の確保並び取引の適正化に関する法律関係			8	2	10
合 計			893	132	1025

防火対象物の立入検査状況

(令和3年中)

署 別 等			吉備 金屋 消防署	清 水 消 防 署	実 施 数 (合 計)
令 別 表 第 一 区 分					
1	イ	劇場・映画館等	-	-	-
	ロ	公会堂・集会場等	-	-	-
2	イ	キャバレー・カフェ・ナイトクラブ等	-	-	-
	ロ	遊技場・ダンスホール	-	-	-
	ハ	風俗営業等を営む店舗	-	-	-
	ニ	カラオケボックス等	-	-	-
3	イ	料理店	-	-	-
	ロ	飲食店	38	2	40
4		百貨店・マーケット・店舗等	10	-	10
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	-	2	2
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	-	-	-
6	イ	病院、診療所 又は助産所	(1)	-	-
			(2)	-	-
			(3)	-	-
			(4)	-	-
	ロ	自力避難困難者 入所施設等	(1)	-	-
			(2)	-	-
			(3)	-	-
			(4)	-	-
	ハ	福祉・支援施設等	(1)	-	-
			(2)	-	-
			(3)	-	-
			(4)	-	-
	ニ	幼稚園・養護学校等	(5)	-	-
			-	-	-
7		小、中、高、大学校・各種学校	-	2	2
8		図書館・博物館・美術館	-	-	-
9	イ	公衆浴場のうち蒸気、熱気浴場の類	-	-	-
	ロ	イに掲げる浴場以外の公衆浴場	-	1	1
10		車両の停車場	-	-	-
11		神社・寺院・教会の類	-	-	-
12	イ	工場・作業場等	5	-	5
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ	-	-	-
13	イ	自動車車庫・駐車場	-	-	-
	ロ	飛行機の格納庫	-	-	-
14		倉庫	3	-	3
15		前各号に該当しない事業所	1	1	2
16	イ	特定防火対象物の存する複合用途対象物	16	3	19
	ロ	イ以外の複合用途対象物	1	-	1
16の2		地下街	-	-	-
16の3		準地下街	-	-	-
17		重要文化財	-	-	-
18		50メートル以上のアーケード	-	-	-
19		指定山林	-	-	-
合 計			74	11	85

関係防火団体

(1) 有田川町防火委員会

- 1 **趣旨** 有田川町内における幼年消防クラブ、婦人防火クラブ(以下クラブ等という。)の結成と育成強化を推進し、もって地域ぐるみの火災予防の普及と防火防災思想の向上を図るため、有田川町防火委員会(以下「委員会」という。)を置く。(会則第1条)
- 2 **発足** 平成元年(有田消防組合防火委員会発足)
平成18年1月(有田消防組合の構成町である吉備町、金屋町、清水町が合併して有田川町が発足し、有田川町消防本部となり防火委員会も有田川町消防本部防火委員会と改名する)
平成29年11月(有田川町消防本部防火委員会から有田川町防火委員会に改名する)
- 3 **事業** 委員会は次の事業を行う。
 - (1) クラブ等の結成促進に関すること。
 - (2) クラブ等の組織の拡充と育成に関すること。
 - (3) クラブ等の活動に必要な教材、及び資料の提供並びに指導者養成に関すること。
 - (4) 目的を同じくする他の団体との提携に関すること。
 - (5) その他委員会の目的達成のため必要な事項。
- 4 **組織** 委員会は、次に掲げる委員10名以内で構成する。
 - (1) 消防長 1名
 - (2) 各消防署長 2名
 - (3) 消防団長 1名
 - (4) 婦人防火クラブ代表者 3名
 - (5) 幼年消防クラブ支部代表者 3名
- 5 **令和3年事業**
 - (1) 幼年消防クラブ防火たこ揚げ及び防火講話
 - (2) 婦人防火クラブ代表者会議(書面会議)
 - (3) 和歌山県婦人防火クラブ連絡協議会委員会(書面会議)
 - (4) 幼年消防クラブおもちゃ花火教室
 - (5) 有田川町防火委員会総会(書面会議)
 - (6) 幼年消防クラブ防火写生及び防火講話
 - (7) 幼年消防クラブ防火パレード及び防火講話(秋の全国火災予防運動)
 - (8) 街頭啓発(秋の全国火災予防運動)
 - (9) 有田川町防火委員会臨時総会

(2) 婦人防火クラブ

(令和3年4月1日現在)

地 域	団 体 名	クラブ員数(名)
吉 備 地 区	北 筋 婦 人 防 火 ク ラ ブ	37
総 数		37

地 域	団 体 名	クラブ員数(名)
金屋地区		
総 数		

地 域	団 体 名	クラブ員数(名)
清 水 地 区	清 水 婦 人 防 火 ク ラ ブ	31
	押 手 婦 人 防 火 ク ラ ブ	10
総 数		41

有田川町全域婦人防火クラブ員総数	78
------------------	----

※令和3年3月31日付けをもって金屋地区 上六川婦人防火クラブが解散となりました。

(3) 幼年消防クラブ員数

(令和3年4月1日現在)

地 域	保 育 所 名	クラブ員数(名)
吉 備 地 区	藤 並 保 育 所	238
	き び 森 の 保 育 所	184
総 数		422

地 域	保 育 所 名	クラブ員数(名)
金 屋 地 区	金 屋 第 一 保 育 所	48
	金 屋 第 二 保 育 所	10
	金 屋 第 三 保 育 所	21
総 数		79

地 域	保 育 所 名	クラブ員数(名)
清 水 地 区	清 水 保 育 所	13
総 数		13

有田川町全域幼年消防クラブ員総数	514
------------------	-----

※三歳児以上の園児数

火災予防活動

(令和3年中)

1月	10日	有田川町消防団出初式
	18日	消防防災教育(安諦小学校 全学年)
	20日	幼年消防クラブ防火たこ揚げ及び防火講話(清水保育所)
	22日	婦人防火クラブ代表者会議(書面会議)
2月	3日	幼年消防クラブ防火たこ揚げ及び防火講話(藤並保育所、きび森の保育所)
	4日	幼年消防クラブ防火たこ揚げ及び防火講話(金屋第一、第二、第三保育所)
3月	1日	春季全国火災予防運動実施 ～7日
5月	14日	有田川町防火委員会総会(書面会議)
6月	21日	消防防災教育(御霊小学校 2年生、3年生)
	22日	和歌山県婦人防火クラブ連絡協議会委員会(書面会議)
	〃	幼年消防クラブおもちゃ花火教室(金屋第一、第二、第三保育所)
	23日	消防防災教育(御霊小学校 1年生)
	24日	消防防災教育(御霊小学校 6年生)
	25日	幼年消防クラブおもちゃ花火教室(藤並保育所、きび森の保育所)
	29日	おもちゃ花火教室(コスモス保育園)
7月	2日	防火七夕(清水保育所)
	5日	幼年消防クラブおもちゃ花火教室(清水保育所)
	〃	消防防災教育(小川小学校 全学年)
	6日	消防防災教育(石垣小学校 6年生)
	16日	消防防災教育(鳥屋城小学校 4年生)
	〃	消防防災教育(八幡小学校 5年生、6年生)
	〃	消防防災教育(安諦小学校 全学年)
	20日	消防防災教育(御霊小学校 4年生、5年生)
10月	4日	消防防災教育(鳥屋城小学校 1年生、3年生、5年生)
	5日	消防防災教育(鳥屋城小学校 2年生、6年生)
	11日	幼年消防クラブ防火写生(清水保育所)
	18日	幼年消防クラブ防火写生(藤並保育所、きび森の保育所)
	21日	幼年消防クラブ防火写生(金屋第一、第二、第三保育所)
11月	5日	消防防災教育(御霊小学校 全学年)
	9日	秋季全国火災予防運動実施 ～15日
	〃	幼年消防クラブ防火パレード(藤並保育所、きび森の保育所)
	〃	街頭啓発(吉備地区、清水地区)
	10日	幼年消防クラブ防火パレード(清水保育所)
	〃	街頭啓発(金屋地区)
	11日	幼年消防クラブ防火パレード(金屋第一、第二、第三保育所)
	22日	防火委員会臨時総会
12月	28日	消防団年末警戒
	29日	

警防関係



文化保健センター消防隊訓練

消防車両等の配置状況

本部・吉備金屋消防署（配備台数17台）

種 別	外 観	車 名	登 録 番 号	型 式	年 式
広 報 車		ニ ッ サ ン エクストレイ ル	和歌山800 す 25-83	DBA-NT32	令 和 2 年
指 揮 車		三 菱 アウトラン ダー	和歌山831 ろ・119	DBA-CW4W	平成22年
ポ ン プ 車		ト ヨ タ ダイナ	和歌山800 さ 67-34	BDG-XZU378	平成19年
救 助 工 作 車		日 野 レンジャー	和歌山800 は 10-74	SDG-GX7JGAA改	平成29年
小 型 消 防 ホ ン プ 積 載 軽 貨 物 車		ダ イ ハ ツ ハイゼット	和歌山880 あ・527	EBD-S331W	平成20年
タ ン ク 車		日 野 レンジャー	和歌山800 は・883	SDG-GX7JGAA改	平成26年
軽 貨 物 車		ス ズ キ キャリー	和歌山883 か・119	EBD-DA65T	平成20年
高 規 格 救 急 車 1		ト ヨ タ ハイエース	和歌山830 さ・991	CBF-TRH226S	平成23年
高 規 格 救 急 車 2		ト ヨ タ ハイエース	和歌山830 さ・992	CBF-TRH226S	令和元年
ポ ン プ 車 (予 備 車)		三 菱 キャンター	和歌山800 さ・330	KK-FG53ED	平成11年
高規格救急車 (予 備 車)		ト ヨ タ ハイエース	和歌山800 さ 68-33	CBF-TRH226S	平成20年
災害対策車		ト ヨ タ エスティマ	和歌山800 す 12-54	DBA-ACR55W	平成29年

消防車両等の配置状況

種 別	外 観	車 名	登 録 番 号	型 式	年 式
公用車(軽)		スズキ エブリイ	和歌山480 ち 87-06	HBD-DA17V	令和 2 年
人員搬送車		ニッサン セレナ	和歌山531 ゆ・119	DBA-C25	平成21年
救急普及啓 発 広 報 車		ニッサン シビリアン	和歌山800 さ 95-38	ABG-DVW41	平成25年
消防団指揮車		スバル サンバー	和歌山880 あ・873	GBD-TV2	平成23年
資機材搬送車		日 野 デュトロ	和歌山800 す・375	TKG-XZU720M	平成27年

清 水 消 防 署 (配備台数5台)

種 別		車 名	登 録 番 号	型 式	年 式
広 報 車		スズキ エブリイ	和歌山880 あ 17-54	ABA-DA17W	平成28年
ポ ン プ 車		日 野 デュトロ	和歌山800 す 16-76	TKG-XZU685M	平成30年
小 型 消 防 ホ ン プ 積 載 軽 貨 物 車		ダイハツ ハイゼット ジャンボ	和歌山880 あ 23-93	3BD-S510P	令和 3 年
軽 貨 物 車		スズキ キャリー	和歌山883 く・119	EBD-DA65T	平成21年
高 規 格 救 急 車 3		ト ヨ タ ハイエース	和歌山830 さ・993	CBF-TRH226S	平成27年

機械器具等の現況

	機 械 器 具 名		機 械 器 具 名		機 械 器 具 名
消	可搬式動力ポンプB-2級	救	滑車	救	半自動式除細動器
	可搬式動力ポンプC-1級		油圧救助器具一式		オキシレーター
	ホース 40mm		可搬ウインチ		人工呼吸器
	ホース 50mm		ワイヤーロープ		CO2モニター
	ホース 65mm		マンホール救助器具		血圧計
	高圧ホース 65mm		救助用簡易起重機		体温計
	ホースカー		(ポータブルロープウインチ)		聴診器
	ホースバッグ		エンジンカッター		吸引器
	管鎗 50mm		ガソリン溶断器		バッグバルブマスク
	管鎗 65mm		チェンソー		ペンライト
防	クアドラフォグノズル 40mm	助	鉄線カッター	急	喉頭鏡
	フォッグガン 40mm		万能斧		気道確保器具
	泡管鎗 400 ^{リットル} 型		防爆スレッジハンマー		静脈路確保器具
	ポータブルキャプス(武蔵)		携帯用コンクリート破壊器具		血糖測定器
	集水器		ガス検知警報器		自動式心マッサージ器
	安全結合環		空気呼吸器		ストレッチャー
	分岐金具		空気補充用ボンベ		スクープストレッチャー
	媒介金具		耐電手袋		バックボード
	防火水槽鉄蓋ジャッキ		安全帯		ターポリン担架
	スタンドパイプ		防塵めがね		KED(ファerno)
用	東消式簡易発泡器	用	個人携帯用警報器	用	バキュームスプリント
	発泡ノズル		防塵・防毒マスク		メドキッズ
	ジェットシューター		陽圧式化学防護服		ネックカラー
	簡易水槽		簡易画像探索機		輸液ポンプ
	空気呼吸器		水難救助用資器材		携帯用パルスオキシメーター
	予備ボンベ		山岳救助器具		心電図伝送システム
	エンジンカッター		バスケット担架		オゾン発生器
	チェンソー		投光器		N95マスク
	携帯用発電機		携帯投光器		お産セット
	信号機付き投光器		携帯拡声器		リングカッター
器	コードリール	器	携帯無線機	器	アイスパック
	三角ハーネス		応急処置用セット		固定副子
	三連梯子		車両移動器具		ターニケット
	金属製折りたたみ梯子		携帯救助・耐電工具セット		トリアージタッグ
	非接触温度計		マット型空気ジャッキ		集団救急用エアertent一式
	携帯拡声器		ハンマドリル		高度救急処置シミュレーター人形
	ホース巻取り器		送排風機		心電図モニター
			GPS		
			デジタル張力計		
			充電式電動工具一式		
具	かぎ付はしご	具	エアバックカバー	具	
	三連梯子		レスキューブロック		
	ワイヤーはしご				
	救命索発射銃				
	サーバイバースリング・縛帯				
	平担架				
	三つ打ちロープ				
	カラビナ				

消防相互応援協定等の状況

協 定 の 名 称	協定市町村消防本部	締 結 年 月 日	協 定 の 内 容
和歌山県下消防広域相互応援協定	県下市町村及び消防の一部事務組合	平成8年3月1日	・大規模な地震、風水害等の自然災害 ・大規模な火災、林野火災並びに高層建築物火災及び危険物施設火災等の特殊な火災 ・航空機事故、列車事故で大規模又は特殊な事故 ・上記以外の災害で、応援を必要とする災害
湯浅御坊道路・阪和自動車道路(御坊～みなべ)消防相互応援協定	湯浅広川消防組合 御坊市 日高広域消防事務組合	平成15年11月12日	・火災防ぎよ ・救急業務 ・救助業務 ・大規模な地震、風水害等の自然災害
阪和自動車道・湯浅御坊道路・関西空港自動車道及び京奈和自動車道消防相互応援協定	阪和道路消防協議会加盟13本部	平成29年3月18日	・消防業務 ・救急業務
高野町と有田川町とにおける国道371号線上での災害活動に関する協定	高野町	平成17年9月8日	・国道371号線上において発生する全ての災害
有田市・湯浅広川消防組合・有田川町消防相互応援協定	有田市消防本部 湯浅広川消防組合	平成18年4月1日	・大規模な地震、風水害等の自然災害 ・林野火災、高層建築物火災又は危険物施設火災等の大規模な火災 ・航空機事故、列車事故で大規模又は特殊な救急・救助事故 ・その他応援が必要と判断されるもの
有田川町・紀美野町消防相互応援協定	紀美野町	平成18年4月1日	・火災防ぎよのための消防隊の派遣 ・その他災害防除のための応援隊の派遣 ・必要資機材の貸与
高野龍神国定公園における消防相互応援協定	田辺市 かつらぎ町 高野町 五條市 野迫川村 十津川村 伊都消防組合	平成23年7月1日	・火災事案 ・救急事案 ・救助事案 ・その他応援を必要とする事案
有田川町・かつらぎ町・伊都消防組合消防相互応援協定	かつらぎ町 伊都消防組合	平成28年9月1日	・火災、水害、その他の災害防ぎよのための消防隊の派遣 ・救急業務及び救助業務のための救急隊及び救助隊の派遣 ・必要資器材の貸与

消防水利の現況

消防水利数	公設消火栓	公設防火水槽	耐震性貯水槽	その他の水利
2,090	1,551	414	26	99

通信指令関係



高機能消防指令システム

通 信 概 要

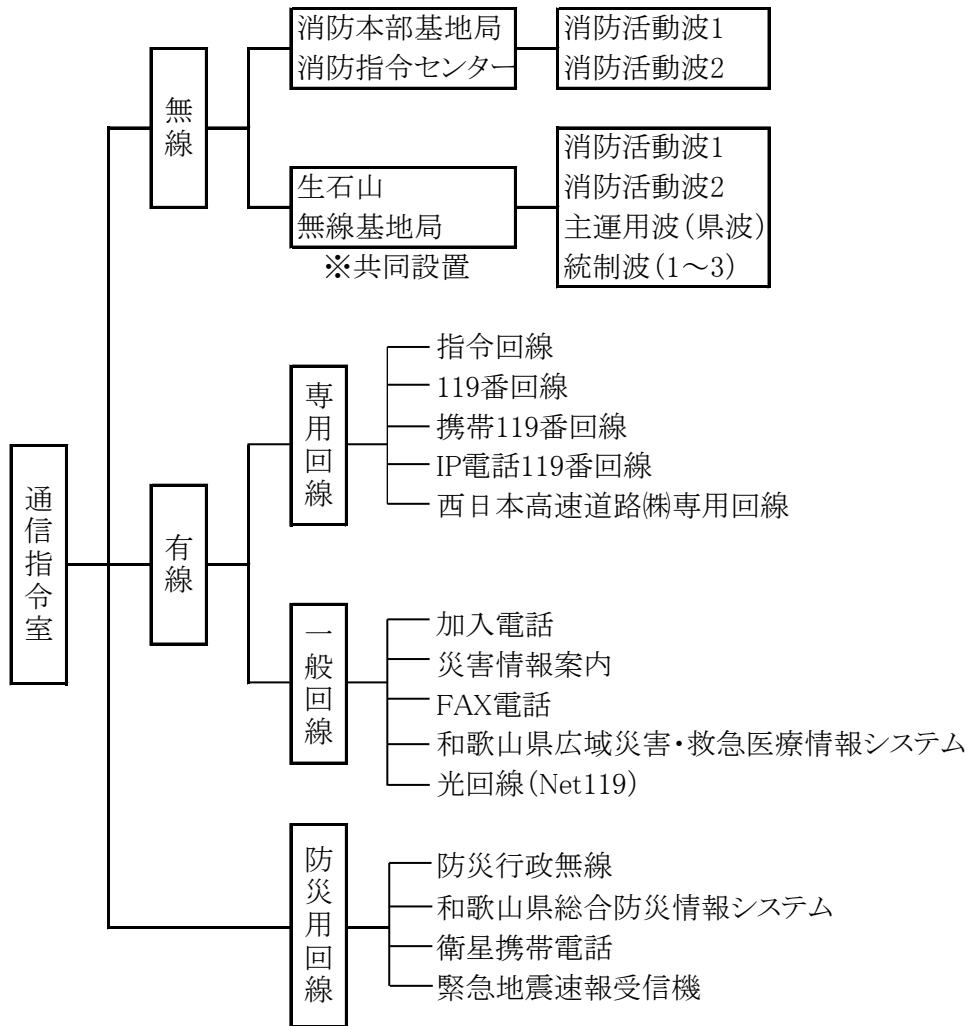
平成 25 年 12 月から高機能消防指令システムを導入し、発生場所の特定から出動隊の編成、出動指令までの一連の処理を瞬時に行い迅速な活動が可能となり、365 日 24 時間体制で災害から町民の安全、安心を守るため指令業務を遂行しています。

令和 3 年の 119 番専用電話の受信件数は 1, 863 件でした。このうち、47.2%にあたる 879 件が救急要請などの災害通報で、52.8%にあたる 984 件が問い合わせなどの非災害通報でした。

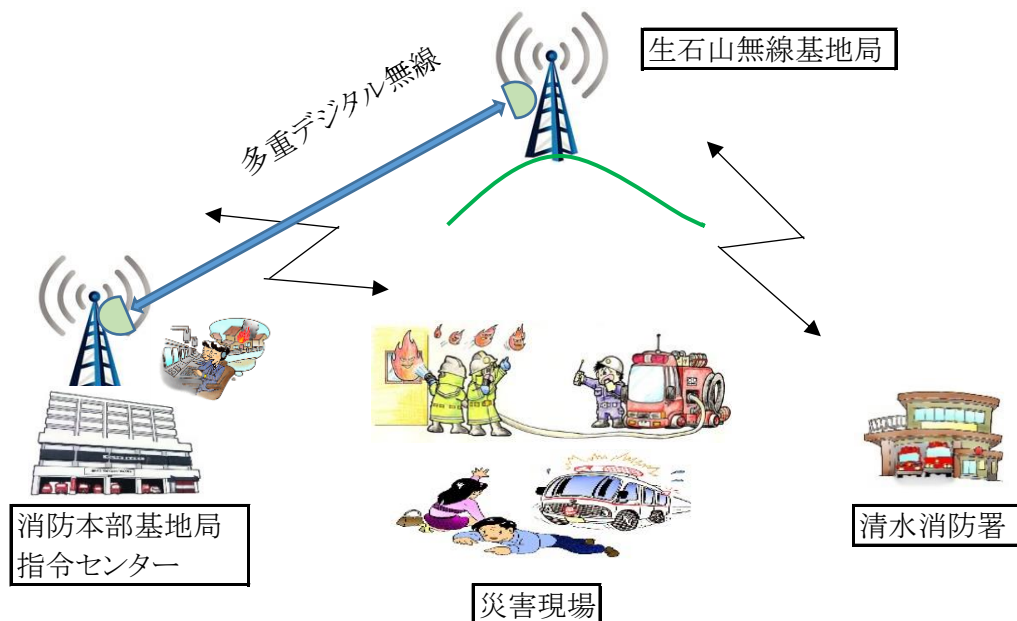
受信件数の内訳は、固定電話からの通報が 953 件（対前年比 63 件増 7.1%増）携帯電話からの通報は 910 件（対前年比 95 件増 11.7%増）となりました。



通信施設系統図



消防用無線局系統図



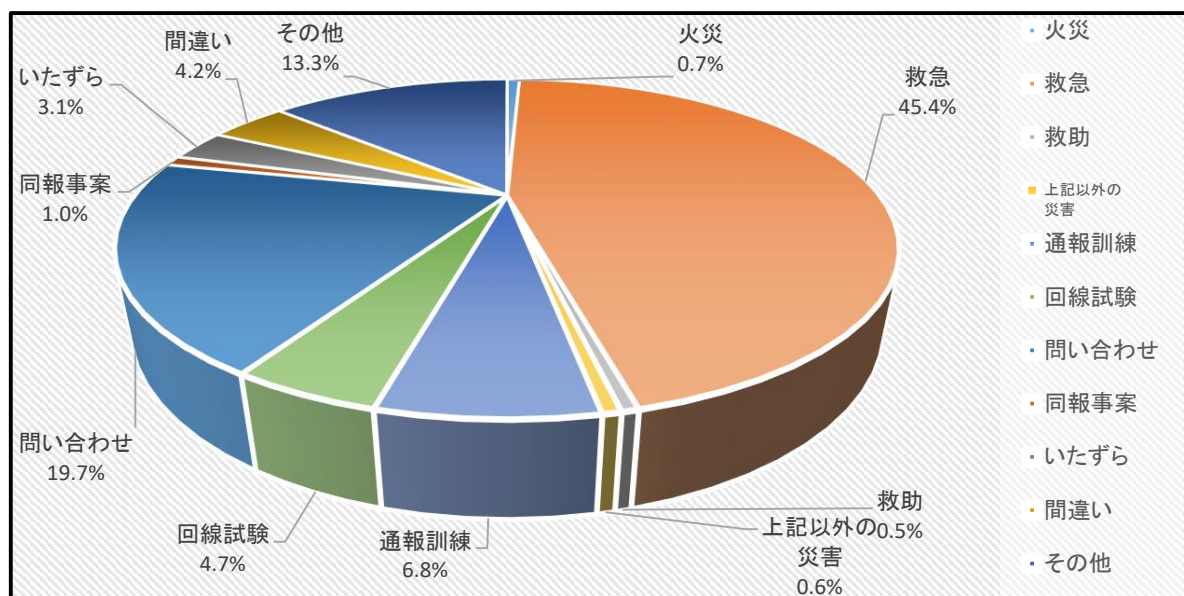
※無線形式はデジタル無線、平成27年より運用

119番通報受付件数

(令和3年中)

種 別		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
災 害	火 災	13	2	2	0	1	1	1	0	1	1	1	0	3
	救 急	845	73	61	58	58	86	65	81	75	65	68	73	82
	救 助	10	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	3	2
	上 記 以 外 の 災 害	11	0	0	3	2	0	1	3	2	0	0	0	0
	小 計	879	76	63	61	61	87	67	85	78	67	71	76	87
災害以外	通 報 訓 練	127	3	7	26	3	4	13	2	10	12	14	28	5
	回 線 試 験	88	5	8	16	1	6	7	4	4	7	8	8	14
	問 い 合 わ せ	367	22	20	25	24	37	22	39	37	38	33	31	39
	同 報 事 案	18	3	1	1	2	5	1	1	2	1	0	0	1
	い た ず ら	58	1	0	1	0	9	4	5	10	9	5	11	3
	間 違 い	78	4	7	5	5	6	6	13	7	3	8	8	6
	そ の 他	248	15	11	20	16	31	33	21	25	18	16	28	14
	小 計	984	53	54	94	51	98	86	85	95	88	84	114	82
合 計		1,863	129	117	155	112	185	153	170	173	155	155	190	169

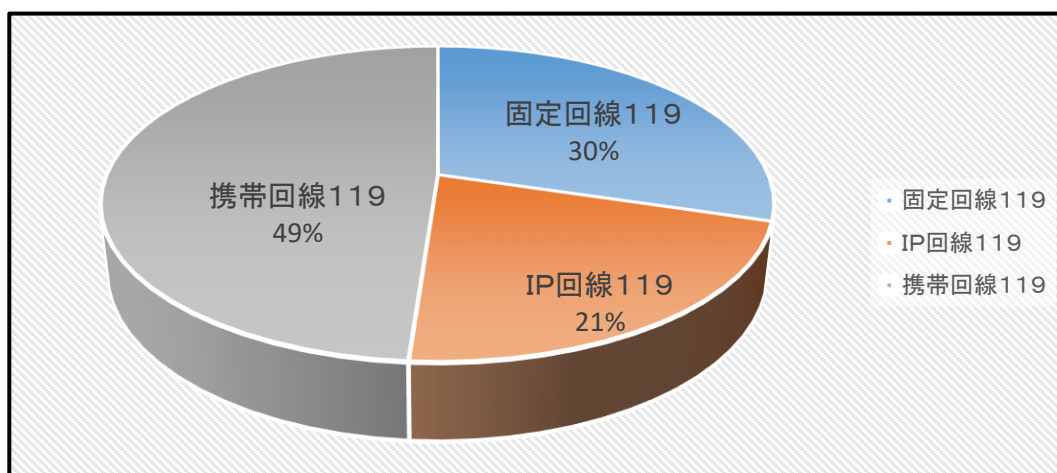
※通報受付件数ですので、災害件数とは異なります。



119番回線受付件数

(令和3年中)

種 別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
固定回線 119	553	31	26	54	30	45	39	57	65	49	54	69	34
I P回線 119	400	27	19	36	28	46	28	33	30	32	41	36	44
携帯回線 119	910	71	72	65	54	94	86	80	78	74	60	85	91
合 計	1,863	129	117	155	112	185	153	170	173	155	155	190	169



覚知別災害件数

(令和3年中)

種 別	計	119番通報			119番通報以外						
		固定電話	IP電話	携帯電話	一般回線	携帯電話	駆付	警察電話	自己覚知	事後聞知	その他
火 災	22	2	1	8	0	4	0	0	0	7	0
救 急	1,236	172	236	441	217	80	37	9	0	0	44
救 助	11	2	1	7	0	0	0	0	0	0	1
そ の 他 出 動	160	24	28	60	11	11	4	5	1	0	16
合 計	1,429	200	266	516	228	95	41	14	1	7	61

※その他出動 火災・救急・救助出動以外の出動、救急支援等も含む。

デジタル系無線局

	呼 出 名 称	免許種別	活動波		主運用波							統制波			出力
			1	2	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	
本部 ・ 吉備 金屋 消防署	ありしょうほんぶ	基地局	○	○											10W
	ありしょうおいし	基地局	○	○				○				○	○	○	10W
	ありしょうきゅうきゅう1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうきゅうきゅう2	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうきゅうきゅう4	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうしき1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうこうほう1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうほんぶ1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	10W
	ありしょうたんく1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうかがく1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうきゅうじょ1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうけいぼんぶ1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうぼんぶ3	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうしえん1	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうしえん3	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうしきほんぶ1	可搬型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょう21	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう22	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう23	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	5W
	ありしょう24	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう25	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう26	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう27	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう28	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう29	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
清水 消防署	ありしょうしみず1	卓上型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうきゅうきゅう3	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうこうほう2	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうぼんぶ2	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうけいぼんぶ2	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょうしえん2	車載型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10W
	ありしょう41	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう42	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう43	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう44	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W
	ありしょう45	携帯型移動局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5W

※和歌山県は主運用波4を使用。

署活動用無線

陸上 移動局 (携帯)	実装 (CH)		電波形式		出力	
	1	署 活 動 波	1	F3E	1W	
	2	署 活 動 波	2			
	3	署 活 動 波	3			
	4	署 活 動 県 波				
	5	署 活 防 災 相 互 波				
	6～22	緊急消防援助隊 (G 1 ～ G 17)				

※6～22CHにあつては、署活動用無線機30台中、12台のみ実装

有田川町の地震情報

(令和3年中)

発生日時		最大震度	観測場所
令和3年2月15日	13時28分頃	1	消防本部
令和3年3月15日	00時26分頃	3	
令和3年3月15日	00時59分頃	1	
令和3年3月15日	11時37分頃	1	
令和3年4月13日	16時54分頃	1	
令和3年5月26日	08時57分頃	1	
令和3年7月31日	13時10分頃	1	
令和3年9月6日	23時59分頃	2	
令和3年9月13日	14時29分頃	1	
令和3年10月15日	07時57分頃	1	
令和3年12月3日	09時28分頃	3	

※消防本部内に設置している計測震度計によるもの



有田川町消防本部
災害情報案内:0737-52-6969

有田川町の気象

当町の気候は、瀬戸内気候区と南海気候区に属し、比較的温暖な気候に恵まれています。低地部と山間部では、気象状況に若干の差異があります。西側の低地部では、最も寒い日でも、零度を下回ることが少ない一方で、東側の山間部では、毎年積雪が観測されます。

令和3年中の最高気温は34.2℃、最低気温は-2.8℃となっています。また、大雨や台風による気象災害が発生しやすく、年間降水量は1996mmで、月平均では166.3mmとなっています。

(有田川町消防本部観測)

気 温	年 平 均 気 温	16.5℃	
	最 高 気 温	34.2℃	(8月8日)
	最 低 気 温	-2.8℃	(1月9日)
風 向 風 速	年 平 均 風 速	1.7m/s	
	最大瞬間風速	22.8m/s	(1月29日 西北西)
	年間最多風向	南東	
湿 度	年 平 均 湿 度	78.1%	
	最 大 湿 度	99.9%	(1月22日)
	最 小 湿 度	11.9%	(4月22日)
雨 量	年 降 水 量	1996.0mm	
	月最大降水量	561.0mm	(8月)
	日 最 大 雨 量	113.0mm	(8月17日)
	時間最大雨量	49.0mm	(5月1日 15時～16時)

月別気象統計

(令和3年中)

	月平均	月平均	最大瞬間	最大瞬間	月平均	月最高	月最低	月平均	月最高	月最低	月平均	月平均	10分最大	時間最大	月最大	月積算
	風速	風向	風速	時 風向	気温	気温	気温	相対湿度	相対湿度	相対湿度	実効湿度	現地気圧	雨量	雨量	雨量	雨量
単位	m/s		m/s		℃	℃	℃	%	%	%	%	h P a	mm	mm	mm	mm
1月	2.0	北西	22.8	西北西	5.4	17.1	-2.8	73.2	99.9	36.9	73.2	1011.6	5.0	13.5	22.0	65.0
2月	2.1	南東	17.6	西北西	7.9	21.2	-1.0	67.1	99.7	26.9	67.5	1009.8	2.0	8.0	34.5	63.5
3月	2.0	南東	17.8	南南東	11.7	23.3	1.2	74.0	99.9	23.8	73.3	1009.4	12.5	24.5	48.5	154.0
4月	1.8	南東	16.7	北	14.4	25.3	3.5	68.3	99.9	11.9	67.7	1009.2	4.0	13.0	91.0	187.5
5月	1.5	南東	18.3	南	19.0	26.8	6.7	80.2	99.9	20.2	80.3	1002.0	15.5	49.0	62.5	304.5
6月	1.3	南東	15.9	南東	22.4	31.4	15.4	82.0	99.9	23.6	80.7	1000.8	4.5	13.5	34.5	104.0
7月	1.2	南東	17.8	南南東	26.3	33.7	21.0	86.5	99.9	45.5	86.9	1001.6	11.0	15.5	45.5	181.5
8月	1.5	南東	21.2	南南東	26.7	34.2	21.1	87.1	99.9	22.2	86.9	1001.6	14.5	35.0	113.0	561.0
9月	1.2	南東	17.8	南南東	24.0	31.7	18.1	87.4	99.9	37.7	86.5	1004.5	7.5	20.0	63.0	173.0
10月	1.6	南東	17.4	北北西	19.1	30.1	8.7	78.2	99.7	37.7	78.7	1009.9	5.5	8.0	26.0	39.5
11月	1.6	南東	18.5	南東	12.7	23.4	2.2	77.8	99.9	40.8	77.7	1009.2	5.5	15.0	44.5	83.5
12月	2.2	南東	22.7	北西	7.9	17.4	0.4	74.9	99.9	37.7	75.5	1011.1	3.0	14.5	21.5	79.0
平均	1.7	南東			16.5			78.1			78.0	1006.7				
最高	10.7	北西	22.8	西北西		34.2			99.9		95	1025.2	15.5	49.0	113.0	561.0
起時	1月7日		1月29日			8月8日			1月22日		8月17日	11月28日	5月1日	5月1日	8月17日	8月
	14:15		0:40			12:50			22:19			8:40	15:10	15:20		
最低							-2.8			11.9	56.0	982.2				
起時							1月9日			4月22日	4月22日	8月9日				
							4:33			10:53		7:41				
積算																1996.0

※有田川町消防本部観測

火災統計



消防隊訓練

火災統計について

1 火災統計

火災統計は、消防庁制定の火災報告取扱要領に従って、分類統計したものです。同取扱要領による火災の定義、火災の種別、火災損害は次のとおりです。

(1) 火災の定義

「火災」とは、人の意図に反して発生し若しくは拡大し、又は放火により発生して消火の必要がある燃焼現象であって、これを消火するために消火施設又はこれと同程度の効果のあるものの利用を必要とするもの、又は人の意図に反して発生し若しくは拡大した爆発現象をいう。

(2) 火災の種別

- ・建物火災 建物又はその収容物が焼損した火災をいう。
- ・林野火災 森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
- ・車両火災 原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
- ・船舶火災 船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
- ・航空機火災 航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
- ・その他の火災 上記の火災以外の火災（空地、田畑、道路、河川敷、ごみ集積場、屋外物品集積場、軌道敷、電柱類等の火災）をいう。

(3) 火災損害

「火災損害」とは、火災によって受けた直接的な損害をいい、消火のために要した経費、焼跡整理費、り災のための休業による損失等の間接的な損害を除いたものをいう。

2 火災の概況

令和3年中の火災は22件で、その内訳は建物火災13件、林野火災5件、車両火災1件、その他の火災3件となっており、人口1万人あたりの出火件数（出火率）は8.5件となっています。火災損害見積額は90,214千円、建物火災焼損床面積は546.3㎡、林野焼損面積は2.0a、その他火災の焼損面積は1315㎡、火災による死者0人、負傷者2人となっています。また、出火原因別では「電気、機械器具」5件、「たき火、焼却」3件、「排気ダクト」2件、「コンロ、七輪」2件、「放火」1件、「マッチ」1件、「たばこ」1件、「不明」7件となっています。

3 火災の調査

火災の調査は、消防関係法令に基づき火災予防を主とする消防行政上の必要を満たすために認められた、きわめて重要な業務です。

消防機関の行う調査は、出火点となりやすい箇所や防火管理上盲点となりやすい点など、危険的要素の一つひとつを究明し、調査結果を火災予防施策へ反映することを目的としています。

令和3年中の火災発生状況

火 災 概 要

(令和3年中)

(比較△は減)

火災統計			令和2年	令和3年	比較
出火件数			5	22	17
火災種別	建物		－	13	13
	林野		4	5	1
	車両		－	1	1
	その他		1	3	2
焼損棟数	全焼		－	5	5
	半焼		－	1	1
	部分焼		－	3	3
	ぼや		－	7	7
焼損面積	建物 (㎡)	床面積	－	546.3	546.3
		表面積	－	124	124
	その他(㎡)		1,155.0	1,515.5	360.5
り災世帯	全損		－	2	2
	半損		－	1	1
	小損		－	3	3
り災人員			－	19	19
死傷者	死者		1	－	△ 1
	傷者		1	2	1
損害見積額 (千円)	建物	建物	－	30,505	30,505
		収容物	－	11,768	11,768
	林野		791	77	△ 714
	車両		－	25,486	25,486
	その他		6	22,378	22,372
	合計		797	47,941	47,144

出 火 原 因 の 状 況

	令和2年	令和3年	比較
電気、機械器具	－	5	5
たき火、焼却	4	3	△ 1
排気ダクト	－	2	2
コンロ、七輪	－	2	2
放火	－	1	1
マッチ	－	1	1
たばこ	－	1	1
不明	1	7	6

過去10年間の火災発生状況

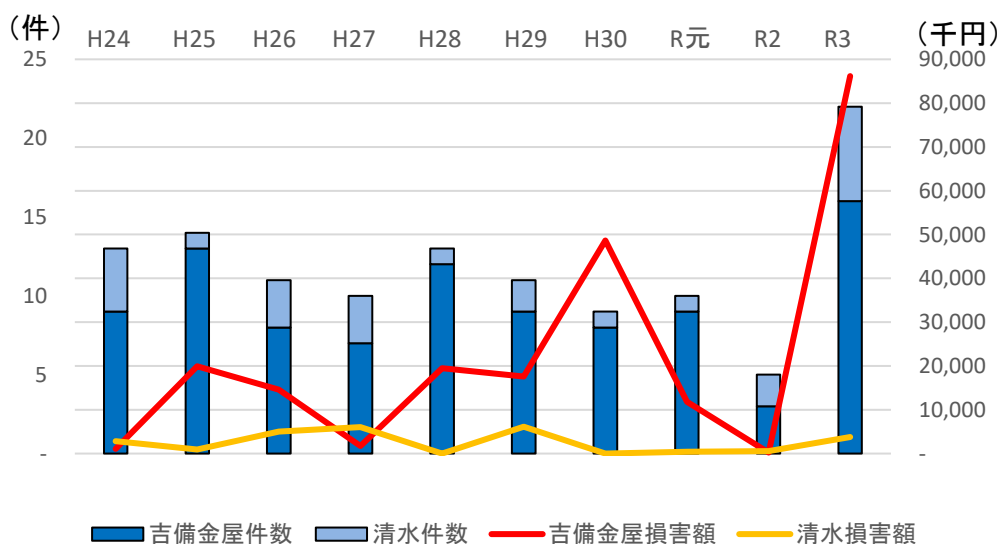
吉備金屋消防署管内

区分 年別	火災 件数	火災種別				焼 損 棟 数	り 災 世 帯	り 災 人 員	死傷者数		焼 損 面 積		損 害 額 (千円)
		建 物	林 野	車 両	そ の 他				死 者	傷 者	建 物 (㎡)	林 野 (a)	
H24	9	3	-	2	4	3	2	7	-	1	33.4	-	1,037
H25	13	1	-	1	11	1	1	1	-	1	155.0	-	19,913
H26	8	3	-	2	3	8	5	16	1	-	450.0	-	14,580
H27	7	2	-	-	5	2	4	14	-	1	58.0	-	1,764
H28	12	6	1	1	4	11	8	13	-	3	271.0	28.0	19,505
H29	9	4	-	1	4	8	2	9	-	2	456.2	-	17,604
H30	8	7	-	-	1	7	-	-	-	-	471.5	-	48,668
R元	9	5	1	2	1	7	2	5	-	-	323.1	14.0	11,780
R2	3	-	2	-	1	-	-	-	1	1	-	25.5	224
R3	16	11	1	1	3	5	4	15	-	-	366.6	1.0	86,470

清水消防署管内

区分 年別	火災 件数	火災種別				焼 損 棟 数	り 災 世 帯	り 災 人 員	死傷者数		焼 損 面 積		損 害 額 (千円)
		建 物	林 野	車 両	そ の 他				死 者	傷 者	建 物 (㎡)	林 野 (a)	
H24	4	3	1	-	-	3	3	4	2	-	246.0	-	2,789
H25	1	1	-	-	-	2	1	1	-	-	100.7	-	957
H26	3	3	-	-	-	5	3	4	1	-	209.5	-	5,026
H27	3	3	-	-	-	5	3	4	1	-	221.1	-	6,016
H28	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
H29	2	1	-	-	1	2	1	2	-	-	399.0	-	6,129
H30	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
R元	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	2.0	14.0	408
R2	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	13.9	573
R3	6	2	4	-	-	3	2	4	-	2	179.7	1.0	3,744

出火発生件数及び損害額の推移

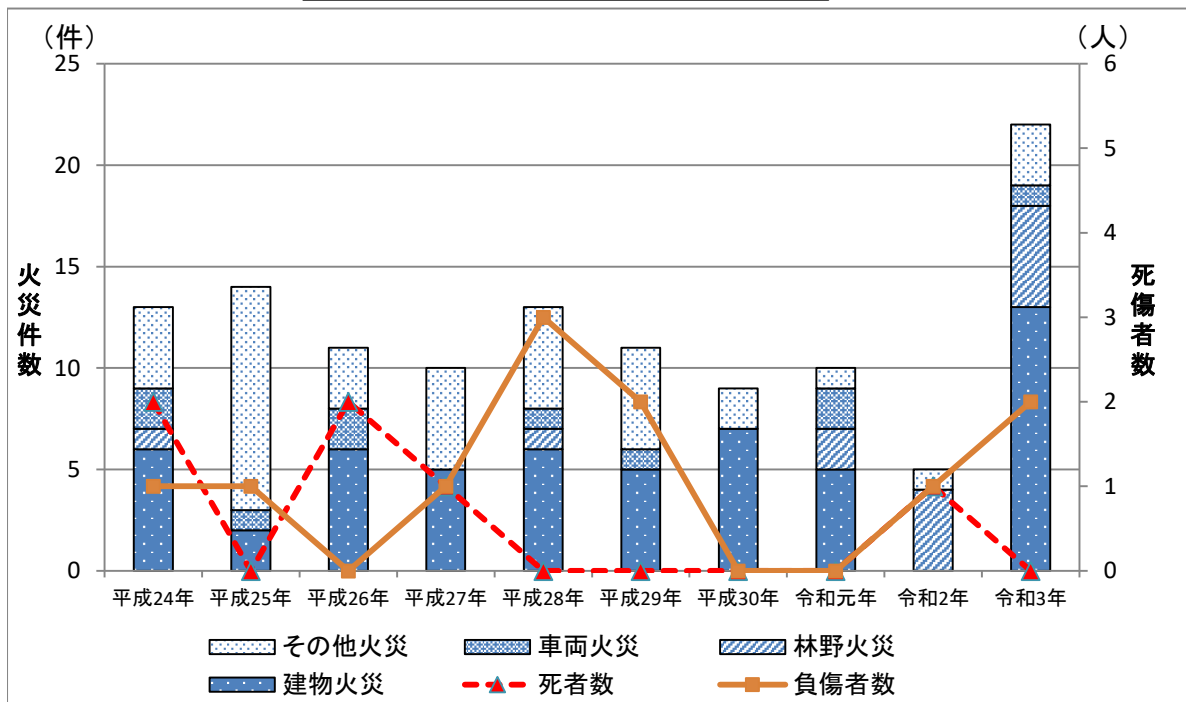


年別火災件数等の推移

年別 区分		平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年
火災 種別	建物火災	6	2	6	5	6	5	7	5	－	13
	林野火災	1	－	－	－	1	－	－	2	4	5
	車両火災	2	1	2	－	1	1	－	2	－	1
	その他火災	4	11	3	5	5	5	2	1	1	3
	計	13	14	11	10	13	11	9	10	5	22
出 火 率		4.8	5.1	4.0	3.7	4.8	4.1	3.4	3.8	1.9	8.5
死 者		2	－	2	1	－	－	－	－	1	－
死 者 率		7.3	－	7.3	3.7	－	－	－	－	3.8	－
負 傷 者		1	1	－	1	3	2	－	－	1	2
建物焼損面積(㎡)		279	256	660	279	271	855	471	325	－	546.3
建物火災一件あたりの 焼損面積(㎡)		46.5	128.0	110.0	55.8	45.0	171.0	67.3	64.6	－	42.0
林野火災焼損面積(a)		－	－	－	－	28.0	－	－	28.0	39.0	2.0
林野火災一件あたりの 焼損面積(a)		－	－	－	－	28.0	－	－	14.0	9.8	0.4
総損害見積額(千円)		3,826	20,870	19,606	7,780	19,505	23,732	48,668	12,188	797	90,214
一件あたりの 平均損害見積額(千円)		294	1,491	1,782	778	1,500	2,157	5,408	1,219	159	4,101

※出火率(人口1万人あたりの出火件数)＝出火件数／人口×10,000 死者率(人口10万人あたりの死者数)＝死者数／人口×100,000

火災種別発生件数及び死傷者数の推移



救急・救助統計



救急技術指導会

救 急 業 務 に つ い て

1 救急活動

救急活動は、急病人や事故等による怪我人に対して、応急処置を実施し、症状に適合する医療機関に迅速に搬送することにより、救命と悪化防止を図ることを目的としています。

当消防本部は、昭和 54 年 10 月 1 日から吉備、金屋地域、また昭和 62 年 10 月 1 日から清水地域の救急業務を消防組合として開始しました。

現在も、救急自動車を吉備金屋消防署に 2 台、清水消防署に 1 台を配備し、住民の事故や急病など、緊急事態に備え、対応しています。

令和 3 年は、1, 236 件出動し、延べ 1, 156 人を搬送しました。

2 救急救命士

プレホスピタルケア（救急現場及び搬送途上の応急処置）の充実を図るため平成 3 年に救急救命士法が制定され、当消防本部においては、平成 8 年度に初めて救急救命士が誕生しました。

令和 3 年 12 月現在、救急救命士の資格を有する職員は 23 人となり、救急現場等で活躍しています。また、高度な救急救命処置が可能な高規格救急自動車と特定行為資器材の導入を平成 10 年から開始し、現在では、全て高規格救急自動車を運用しています。

救急救命士による救命効果の向上を図るため、救急救命士の処置範囲の拡大が検討され、メディカルコントロール体制（①医師との常時連絡体制、②救急活動の事後検証体制、③救急救命士の再教育の充実など）の整備を前提条件として、平成 15 年 4 月から医師の指示を受けなくても除細動が可能になり、平成 16 年 7 月からは気管挿管も可能になりました。

また、平成 18 年 4 月からは、アドレナリン（心拍再開を補助する強心剤）の使用が認められ、平成 26 年 4 月からは、血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与及び心肺機能停止前の重度傷病者への静脈路確保と輸液が可能になりました。

3 和歌山県救急救命協議会

消防機関による救急搬送について、傷病者の適切な搬送及び受入れを図るため、「消防法の一部を改正する法律（平成 21 年法律第 34 号）」が平成 21 年 5 月 1 日に公布され、同年 10 月 30 日に施行されました。改正消防法では、消防機関及び医療機関等により構成する協議会を設置すること、また傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準の策定を都道府県に義務付けています。

和歌山県では、和歌山県救急救命協議会を設置し、消防機関と医療機関の連携体制を強化するとともに、搬送先医療機関の選定困難事案の発生をなくし、傷病者の症状に応じた適切な搬送及び受入体制の構築を目指し「傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」を策定し、また同協議会は救急隊員（救急救命士を含む。以下同じ）の資質を向上し、医学的観点から救急隊員が行う応急処置等の質を保障することにより、傷病者の救命効果の向上を図ることを目的としています。

4 紀北地域メディカルコントロール協議会

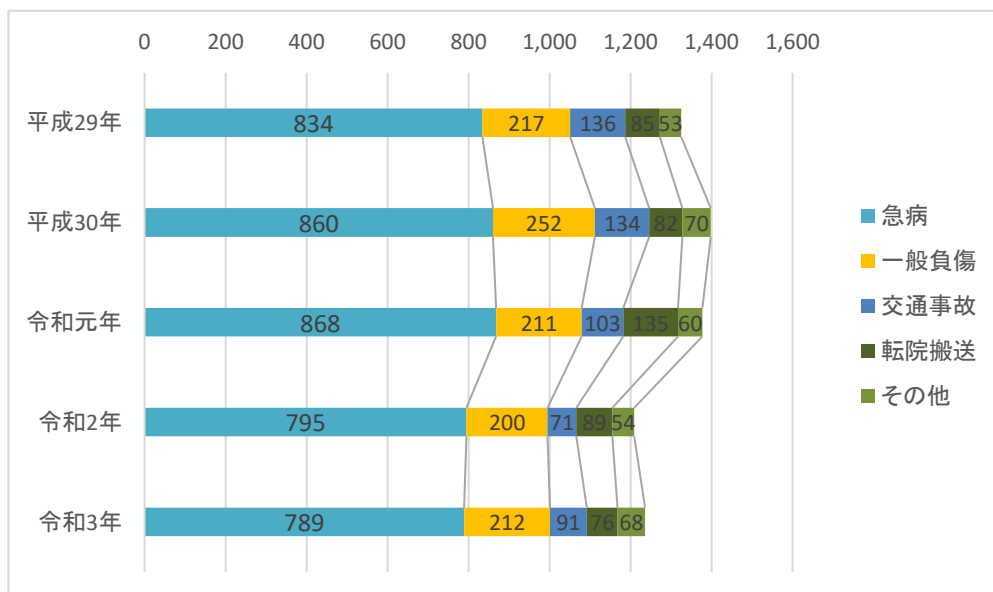
和歌山県救急救命協議会の規定により、和歌山県紀北の 9 消防本部（橋本市、高野町、伊都消防組合、那賀消防組合、海南市、紀美野町、有田市、湯浅広川消防組合、有田川町）の救急活動について医学的観点からの事後検証、救急現場における救急救命士に対する指示、指導、助言、各種救命処置の実施手順、救急隊員の教育などを協議する組織として、和歌山県立医科大学医師を会長に 9 消防本部で構成される紀北地域メディカルコントロール協議会が平成 26 年 5 月に設置されました。

救急出動状況

(過去5年間の推移・前年との比較)

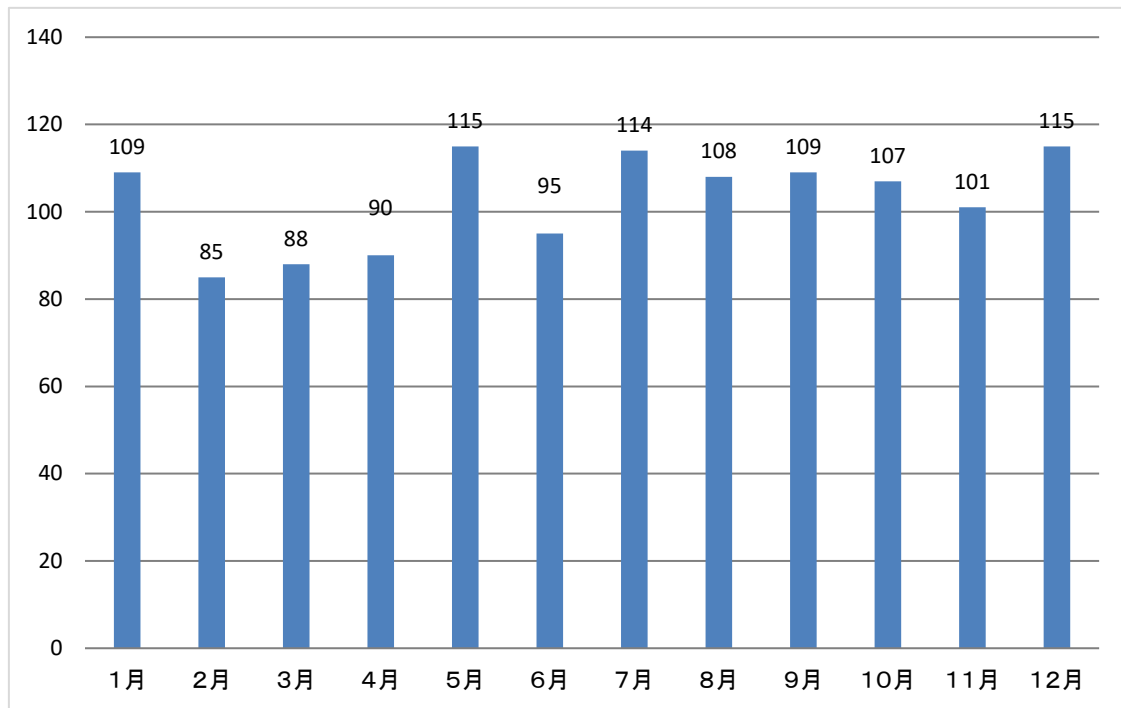
区分		年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	前年比較	
出 動 件 数			1,325	1,398	1,377	1,209	1,236	27	
事 故 種 別	急 病		834	860	868	795	789	-6	
	一 般 負 傷		217	252	211	200	212	12	
	交 通 事 故		136	134	103	71	91	20	
	労 働 災 害		20	17	21	21	27	6	
	運 動 競 技		6	12	5	4	10	6	
	自 損 行 為		4	7	5	8	9	1	
	火 災		2	0	0	1	1	0	
	加 害		1	0	3	2	1	-1	
	水 難		1	2	2	2	0	-2	
	自 然 災 害		0	0	0	0	0	0	
	そ の 他	転 院 搬 送		85	82	135	89	76	-13
		医 師 搬 送		3	8	4	5	7	2
		資器材等輸送		0	0	0	0	0	0
		そ の 他		16	24	20	11	13	2
搬 送 件 数			1,236	1,283	1,276	1,123	1,147	24	
搬 送 人 員			1,251	1,318	1,286	1,130	1,156	26	
不 搬 送			89	115	101	86	89	3	

- ・前年に比べ出動件数が増加しました。特に一般負傷、交通事故が増加しました。
- ・急病による出動割合が全出動件数の6割以上を占めています。



月別出動状況

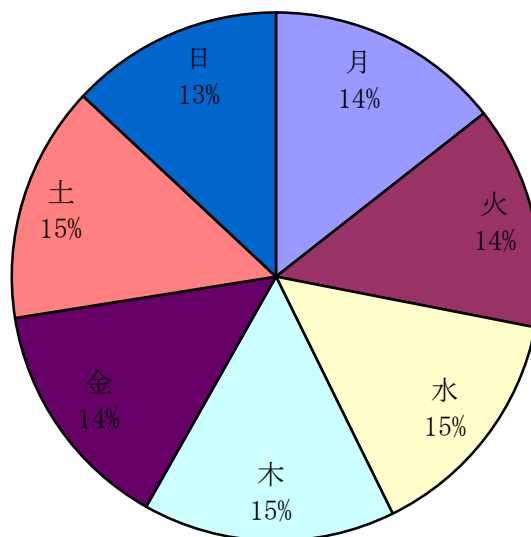
(令和3年中)



曜日別出動状況

(令和3年中)

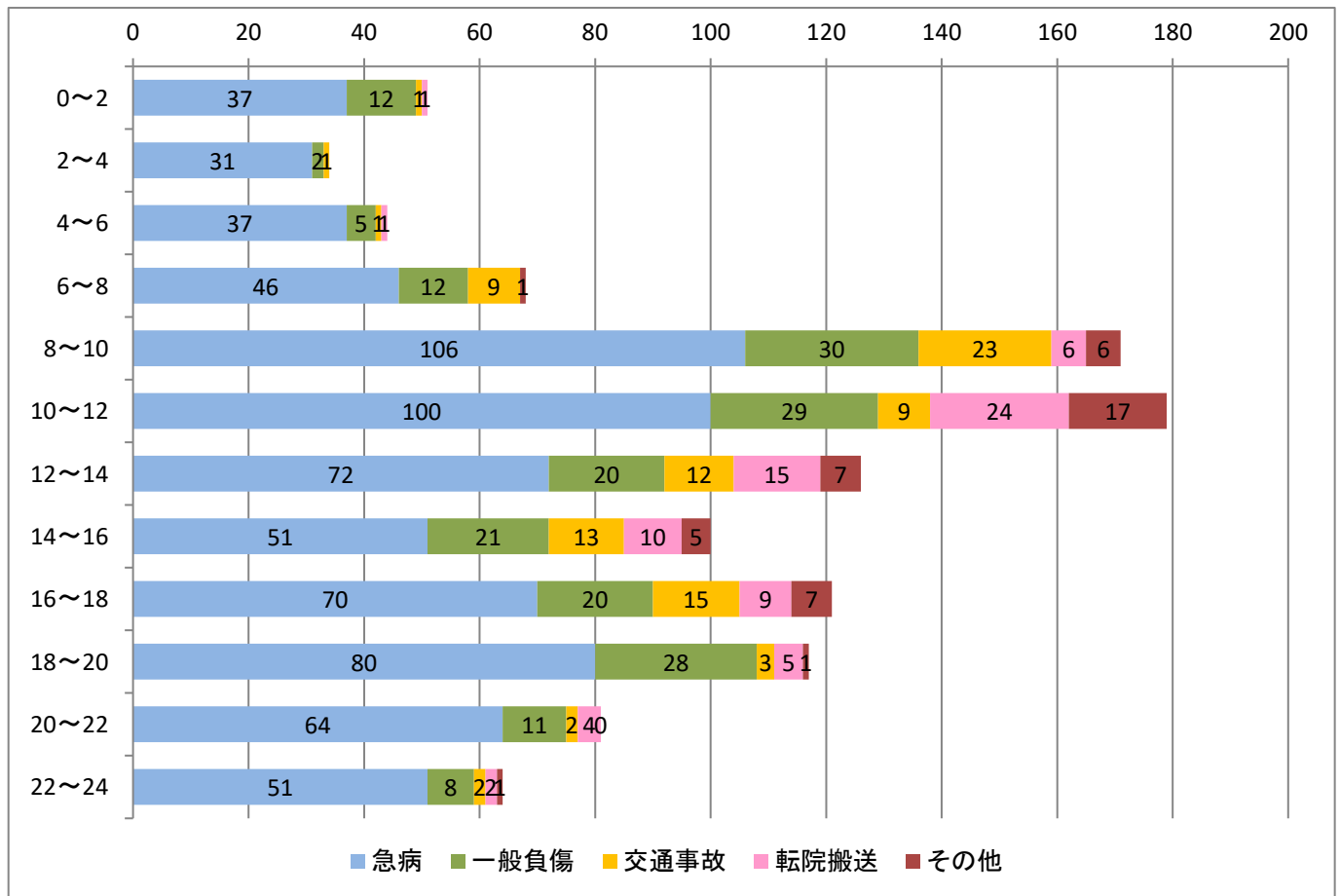
曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
件数	178	169	181	191	177	179	161	1,236



時間別搬送人員状況

(令和3年中)

種別 時間	急病	一般 負傷	交通 事故	労働 災害	運動 競技	自損 行為	火災	加害	水難	自然 災害	そ の 他				合計	
											転院 搬送	医師 搬送	資器材 輸送	その他		
0～2	37	12	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	51	129
2～4	31	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	
4～6	37	5	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	44	
6～8	46	12	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	68	239
8～10	106	30	23	4	2	0	0	0	0	0	6	0	0	0	171	
10～12	100	29	9	10	6	1	0	0	0	0	24	0	0	0	179	
12～14	72	20	12	4	1	2	0	0	0	0	15	0	0	0	126	526
14～16	51	21	13	4	0	0	0	1	0	0	10	0	0	0	100	
16～18	70	20	15	4	1	1	1	0	0	0	9	0	0	0	121	
18～20	80	28	3	1	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	117	262
20～22	64	11	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	81	
22～24	51	8	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	64	
計	745	198	91	27	10	6	1	1	0	0	77	0	0	0	1,156	



傷病程度と年齢別搬送状況

(令和3年中)

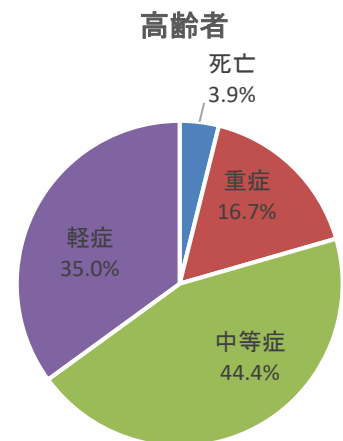
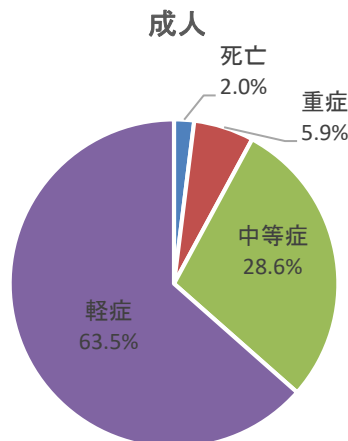
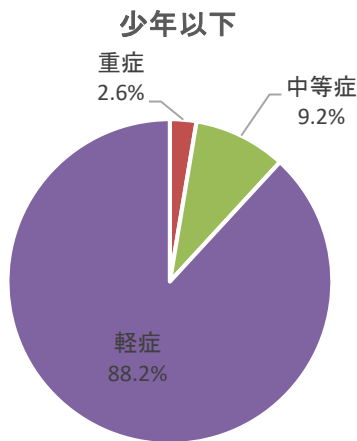
年齢別 程度別	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
死亡	0	0	0	6	30	36
重症	0	0	2	18	129	149
中等症	0	2	5	87	344	438
軽症	0	36	31	193	271	531
その他	0	0	0	1	1	2
合計	0	38	38	305	775	1,156

※年齢区分

- ・新生児(生後28日未満)
- ・乳幼児(生後28日以上7歳未満)
- ・少年(7歳以上18歳未満)
- ・成人(18歳以上65歳未満)
- ・高齢者(65歳以上)

※傷病程度

- ・重症…3週間以上の入院、加療を必要とするもの。
- ・中等症…入院を必要とするもので重症に至らないもの。
- ・軽症…入院、加療を必要としないもの。
- ・その他…医師の診断がないもの及びその他の場所に搬送したもの。

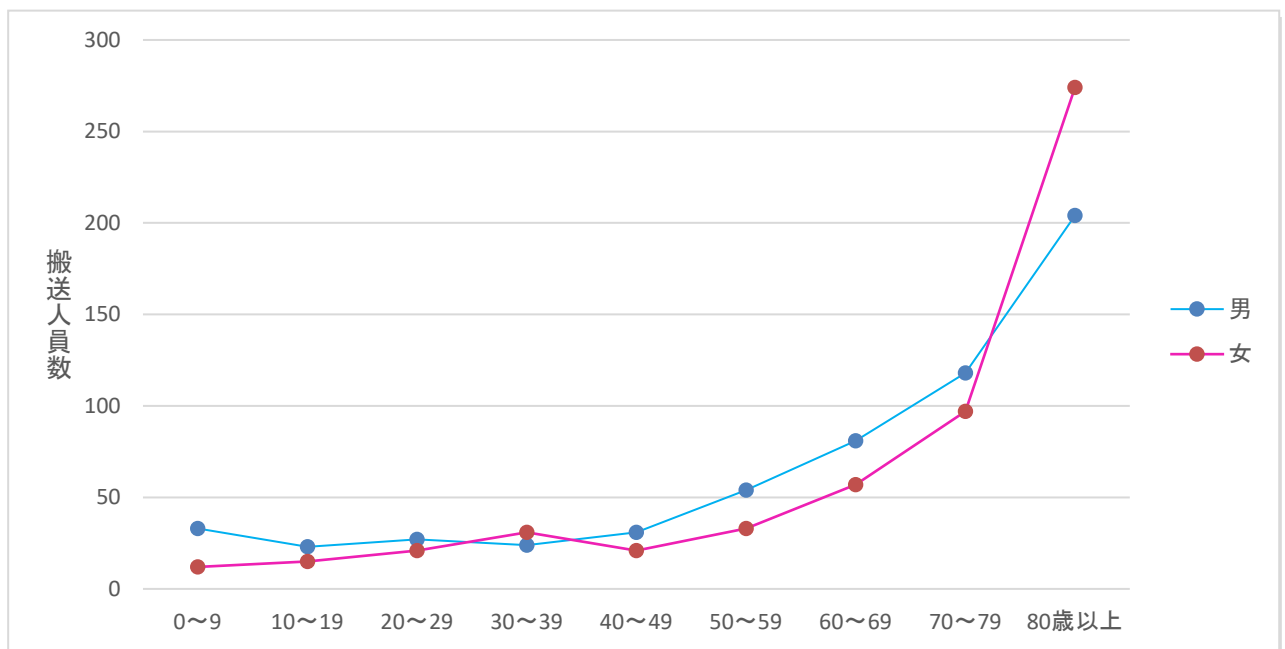


※円グラフに傷病程度「その他」は含まず。

年齢別・性別搬送人員状況

(令和3年中)

年齢別	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上	合計
男	33	23	27	24	31	54	81	118	204	595
女	12	15	21	31	21	33	57	97	274	561
計	45	38	48	55	52	87	138	215	478	1,156

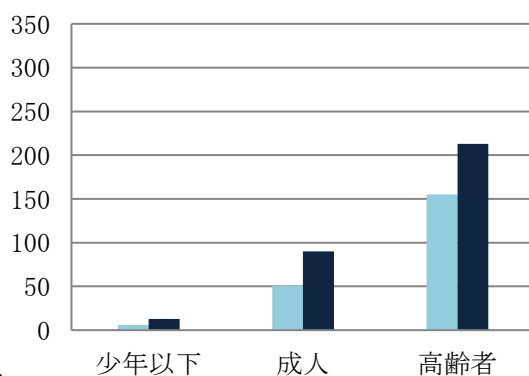


医療圏別と年齢別搬送状況

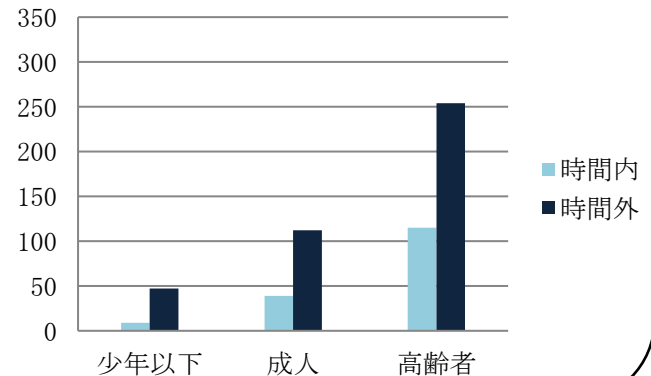
(令和3年中)

医療圏別		年齢別	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	%
有田郡 有田市	診療時間内		0	2	4	51	155	212	46%
	診療時間外		0	3	10	90	213	316	
和歌山市	診療時間内		0	3	2	26	69	100	54%
	診療時間外		0	26	14	80	177	297	
海南市 紀美野町	診療時間内		0	2	1	9	35	31	
	診療時間外		0	2	0	14	41	73	
日高郡 御坊市	診療時間内		0	0	1	4	10	15	
	診療時間外		0	0	5	18	35	58	
その他	診療時間内		0	0	0	0	1	1	
	診療時間外		0	0	0	0	1	1	
ドクターヘリ		運行可能時間	0	0	1	13	38	52	
合 計			0	38	38	305	775	1,156	

有田医療圏



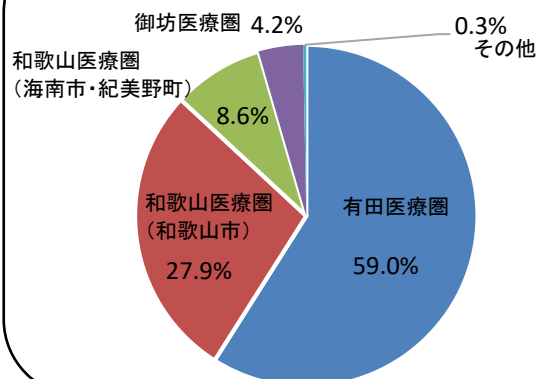
有田医療圏外



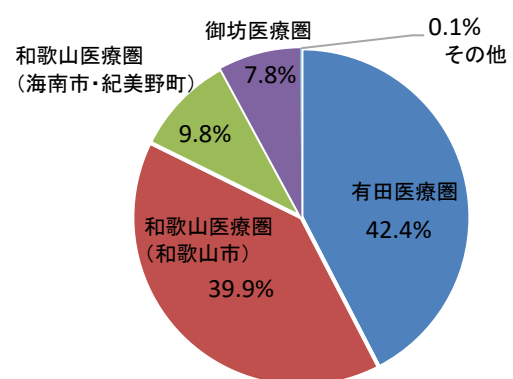
※ドクターヘリコプター搬送にあつては対象に含まず

診療時間内外における医療圏別搬送状況

診療時間内搬送状況



診療時間外搬送状況



※ドクターヘリコプター搬送にあつては対象に含まず

※診療時間内とは、平日9時～17時の診療時間帯とする。

※診療時間外とは、上記診療時間内以外の時間帯とする(夜間、土日祝日)。

※ドクターヘリコプターの時間帯は、8時～日没までとする(休日等は問わない)。

救急救命士による特定行為の状況

令和3年中に救急救命士が傷病者に対し実施した特定行為の状況

*1 除細動	*2 器具による 気道確保	*3 静脈路確保 (心停止)	*4 薬剤投与	*5 静脈路確保 (心停止前)	*6 血糖測定	*7 ブドウ糖 投与	*8 エピペン
6	35	27	16	11	19	0	0

※特定行為

医師の包括的指示、または具体的指示を得たうえで救急救命士のみが行える高度な救急救命処置をいう。

包括的指示とは、処置等の対応をあらかじめ一定の範囲で認めておく医師の事前指示のことをいう。

具体的指示とは、傷病者の状態をオンライン(電話)で医師に伝え直接指示を受けること。

*1、*6、*8は医師の包括的指示、*2～*5、*7は医師の具体的指示により実施するもの。

*1除細動

心肺停止傷病者に対し、心電図を解析し電気ショックを与えることをいう。

*2器具による気道確保

心肺停止や呼吸停止の傷病者に対し、有効な人工呼吸を行うために気管チューブや食道閉鎖式エアウェイ等の器具を用い気道を確保するものをいう。

*3静脈路確保(心停止)

心肺停止傷病者に対し、蘇生に有効な薬剤を投与できるよう静脈に点滴ラインを確保することをいう。

*4薬剤投与

上記(*3)の静脈路から蘇生に有効な薬剤を投与することをいう。

*5静脈路確保(心停止前)

意識障害や脱水、外傷の傷病者に対し、必要と判断した場合に静脈に点滴ラインを確保することをいう。

*6血糖測定

意識障害の鑑別や搬送先決定のため必要と判断した際に実施するもの。

*7ブドウ糖投与

上記の血糖測定結果により低血糖と判断された場合に実施するもの。

*8エピペン

自己注射可能なアドレナリン製剤の処方を受けた傷病者に対し、アナフィラキシーショックにより生命が危険な状態にある場合に実施するもの。

心肺停止傷病者数と住民手当の件数

令和3年中に搬送した心肺停止傷病者数並びに一般住民の応急手当の状況

救急出動件数		※左記のうち一般住民による応急手当 (止血、冷却処置、心肺蘇生等)	
1,236	うち心肺停止	107	※うち心肺蘇生 (救命処置)
	37		18

※応急手当とは、一般住民が救急隊が到着するまでに行った処置のことをいう。

※応急手当のうち、心臓や呼吸が止まってしまった人に対して行う心肺蘇生を救命処置という。

P A 連 携 出 動 状 況

令和3年中の救急隊と支援隊の連携出動状況

指令内容	救急支援(特命)	救急支援(増員)	救急支援(その他)	ドクターヘリ支援
件 数	82	32	8	7

PA連携

救命、搬出など活動上必要であると判断された場合に、救急隊と支援隊が連携して出動する場合のもの。

救急支援(特命)

119番受信時に心肺停止が疑われ、救命のためにより効果が得られると判断された場合のもの。

救急支援(増員)

発生場所の道路が狭隘で救急車停車位置から現場の距離が遠い場合、又は3階以上の階など、通常の救急隊3名での搬出活動が困難とされる場合のもの。

救急支援(その他)

高速道路上等での安全管理、交通整理など上記以外に救急活動の支援が必要な場合のもの。

ドクターヘリ支援

ドクターヘリコプターの離着陸時の現場の安全確保のために支援が必要な場合のもの。

ドクターヘリコプター

和歌山県立医科大学 高度救命救急センター

和歌山県ドクターヘリコプターは、2003年から和歌山県立医科大学附属病院を基地病院として、3県（和歌山県・奈良県・三重県）合同運用形式で、全国では7番目、関西では初の運航開始となりました。

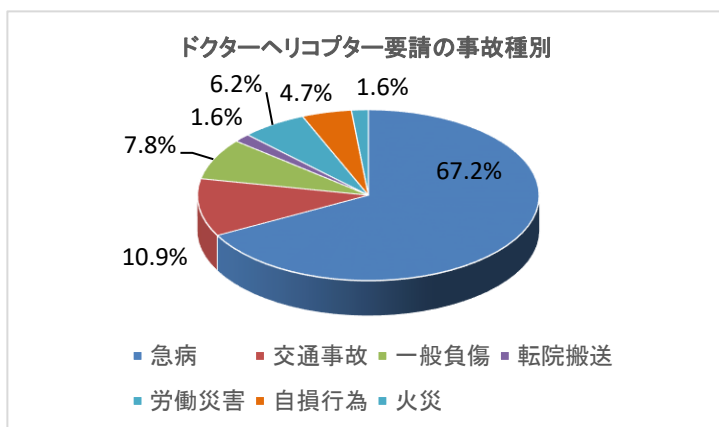
和歌山県のみならず、奈良県南部・三重県南部も含めた広い紀伊半島をカバーするために、通常の基地病院を中心とした半径50km圏ではなく、行政の枠組みを超えて当初から半径100km圏内を運航範囲としていることが特徴です。また、2009年から大阪府ドクターヘリコプターと、2012年には徳島県ドクターヘリコプターとそれぞれ相互応援協定を締結し、広域運航による各機出動中の重複要請にも対応できるようになりました。さらに、奈良県ドクターヘリコプター、三重県ドクターヘリコプターとも2019年に相互応援協定を締結したことで、日ごろの救急医療のみならず、大規模災害時の応援体制が構築されました。

（高度救命救急センター ホームページより）

ドクターヘリコプターを要請した件数

（令和3年中）

署 別	急 病	交通事故	一般負傷	転院搬送	労働災害	自損行為	火災	合 計
吉備金屋消防署	38	4	5	1	3	3	0	54
清 水 消 防 署	5	3	0	0	1	0	1	10
合 計	43	7	5	1	4	3	1	64



ドクターヘリコプターによる搬送事案の発生場所

（令和3年中）

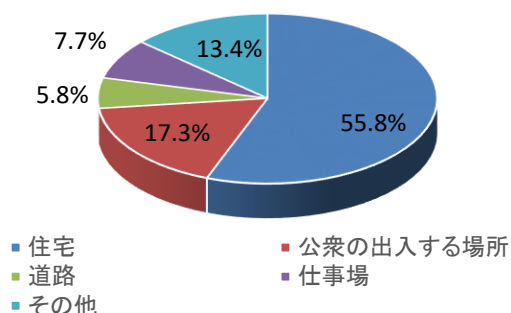
署 別	住宅	公衆の出入する場所	道路	仕事場	その他	合計
吉備金屋消防署	26	6	3	3	5	43
清 水 消 防 署	3	3	0	1	2	9
合 計	29	9	3	4	7	52

ドクターヘリコプターにより搬送された傷病者の傷病程度

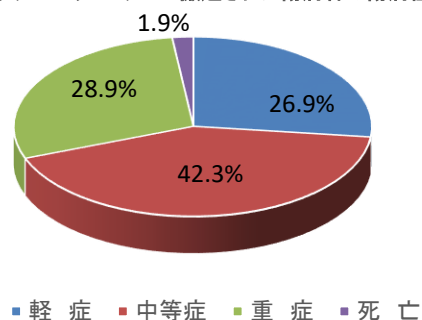
（令和3年中）

署 別	軽 症	中等症	重 症	死 亡	合計
吉備金屋消防署	10	19	14	0	43
清 水 消 防 署	4	3	1	1	9
合 計	14	22	15	1	52

ドクターヘリコプター搬送事案の発生場所



ドクターヘリコプターで搬送された傷病者の傷病程度



有田川町内ヘリコプター離着陸場

	名 称	緯度経度	地 域
1	有田川町防災ステーション（上中島）	緯度 34度4分14秒 経度 135度11分51秒	吉 備
2	吉備ヘリストップ（庄）	緯度 34度3分41秒 経度 135度12分25秒	
3	きび東グラウンド（庄）	緯度 34度4分18秒 経度 135度14分1秒	
4	有田川町消防本部（庄）	緯度 34度3分12秒 経度 135度14分21秒	
5	生石高原駐車場（生石）	緯度 34度6分14秒 経度 135度19分25秒	金 屋
6	東急ゴルフクラブ駐車場（釜中）	緯度 34度6分41秒 経度 135度14分3秒	
7	金屋中学校（中井原）	緯度 34度3分50秒 経度 135度15分31秒	
8	黒沢ハイランド 駐車場(彦ヶ瀬)	緯度 34度7分45秒 経度 135度17分37秒	
9	海南高原ゴルフ場（上六川）	緯度 34度7分19秒 経度 135度15分10秒	
10	早月ヘリポート（尾上）	緯度 34度4分56秒 経度 135度19分2秒	
11	西ヶ峯ヘリポート（西ヶ峯）	緯度 34度5分36秒 経度 135度16分56秒	
12	中峯川村ヘリポート(中峯)	緯度 34度5分45秒 経度 135度17分44秒	
13	清水若者広場（三田）	緯度 34度5分36秒 経度 135度24分58秒	清 水
14	白馬中学校（二川）	緯度 34度3分37秒 経度 135度21分30秒	
15	安諦小学校（板尾）	緯度 34度7分9秒 経度 135度29分36秒	
16	清水救急ヘリポート（清水）	緯度 34度5分25秒 経度 135度26分31秒	
17	五郷地区コミュニティセンター前（中原）	緯度 34度2分53秒 経度 135度23分8秒	
18	下湯川ふるさと村施設（下湯川）	緯度 34度3分36秒 経度 135度26分59秒	
19	西八幡救急ヘリポート（沼）	緯度 34度5分44秒 経度 135度23分24秒	
20	沼谷ヘリポート（沼谷）	緯度 34度7分48秒 経度 135度28分3秒	
21	二川ゲートボール場(二川)	緯度 34度4分9秒 経度 135度21分21秒	

普通救命講習等の実施状況

(令和3年中)

区 分	講 習 別	受 講 数	実 施 数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
吉 備 金 屋 消 防 署	上級救命講習	0人	0回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	普通救命講習	8人	1回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	その他の講習	85人	4回	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
清 消 防 署	上級救命講習	0人	0回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	普通救命講習	0人	0回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の講習	7人	1回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
計	上級救命講習	0人	0回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	普通救命講習	8人	1回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	その他の講習	92人	5回	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0

※その他の講習 普通救命講習に該当しない短時間な講習

「救命の連鎖」



予防

早期の認識と通報

一次救命処置

二次救命処置と
心拍再開後の集中治療

イラスト：へるず出版「救急蘇生の指針」より

救助業務について

1 救助活動

救助活動とは、火災・交通事故・水難事故・自然災害や機械による事故等の災害により生命又は身体に危険が及んでおり、かつ、自らその危険を排除することができない者（要救助者）について、消防法に基づき、その危険を排除し、かつ、安全な状態で救出することにより人命の救助を行うことを目的としています。

2 救助隊

消防機関の行う救助業務は、昭和 61 年 4 月の消防法改正により、救助隊が法的に位置づけられ、対象とする事案は、火災、交通事故、水難事故、自然災害からテロ災害などの特殊な災害まで広範囲に及んでいます。

当消防本部は昭和 63 年 12 月に消防本部に救助工作車を配備し、救助隊が配置されました。平成 29 年 4 月に救助工作車Ⅱ型を更新配備し、現在に至っています。

3 令和 3 年の救助活動

令和 3 年の救助出動は 11 件で前年と比較し、1 件増加しました。

事故種別では、交通事故とその他の事故による出動が最も多く、ともに救助人員は 3 名でした。

※救助事故の区分

火 災 : 火災現場において直接火災に起因して生じた事故

交 通 事 故 : すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故

水 難 事 故 : 水泳中の溺者又は水中転落等による事故

風水害等自然災害事故 : 暴風、豪雨、豪雪、洪水、地滑り等の異常な自然現象に起因する災害による事故

機械による事故 : エレベーター、プレス機械等建設機械又は工作機械による事故

建物等による事故 : 建物、塀等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故

ガス及び酸欠事故 : 一酸化炭素中毒その他のガスによる中毒事故、酸素欠乏による事故

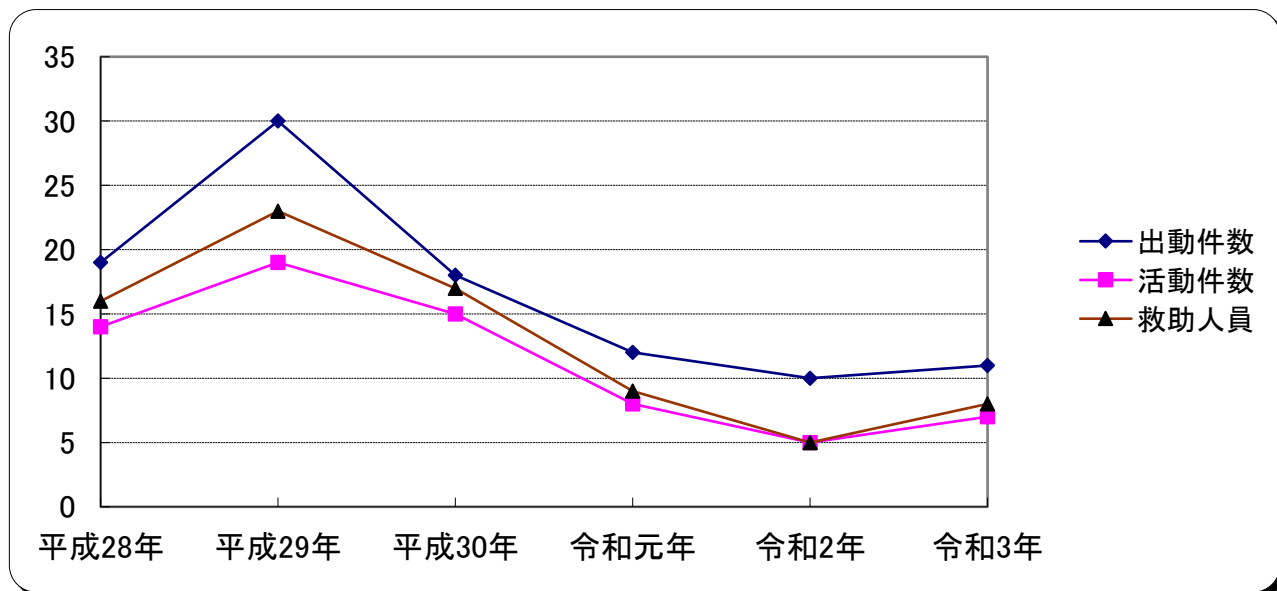
破 裂 事 故 : 火薬、ガス、粉塵、反応容器の爆発、ボイラー、ボンベの破裂等による事故

そ の 他 の 事 故 : 上記に掲げる以外の事故で、消防機関による救助を必要とした事故

救助出動状況

過去5年間の推移・前年との比較

区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	前年比較
救 助 出 動 件 数	21	30	18	12	10	11	1
活 動 件 数	14	19	15	8	5	7	2
救 助 人 員	16	23	17	9	5	8	3



事故種別出動状況

(令和3年中)

種別 区分	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自然 災害 等 事 故	風 水 害 等 事 故	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
救助出動件数	0	4	2	0	1	0	0	0	0	4	11
活動件数	0	2	1	0	1	0	0	0	0	3	7
救助人員	0	3	1	0	1	0	0	0	0	3	8

消防団関係



出初式

消防団の沿革

<旧吉備町>

- 昭和22年 藤並、田殿、御霊村の3村に消防団発足
- 昭和30年 3村合併により吉備町町制施行、吉備町消防団発足
- 平成18年 市町村合併により有田川町消防団に統合

<旧金屋町>

- 昭和30年 鳥屋城、石垣、生石、五西月村の4村合併により金屋町町制施行
金屋町消防団発足
- 昭和34年 岩倉村(大字川口、岩野河、谷、立石)が金屋町に合併
- 平成18年 市町村合併により有田川町消防団に統合

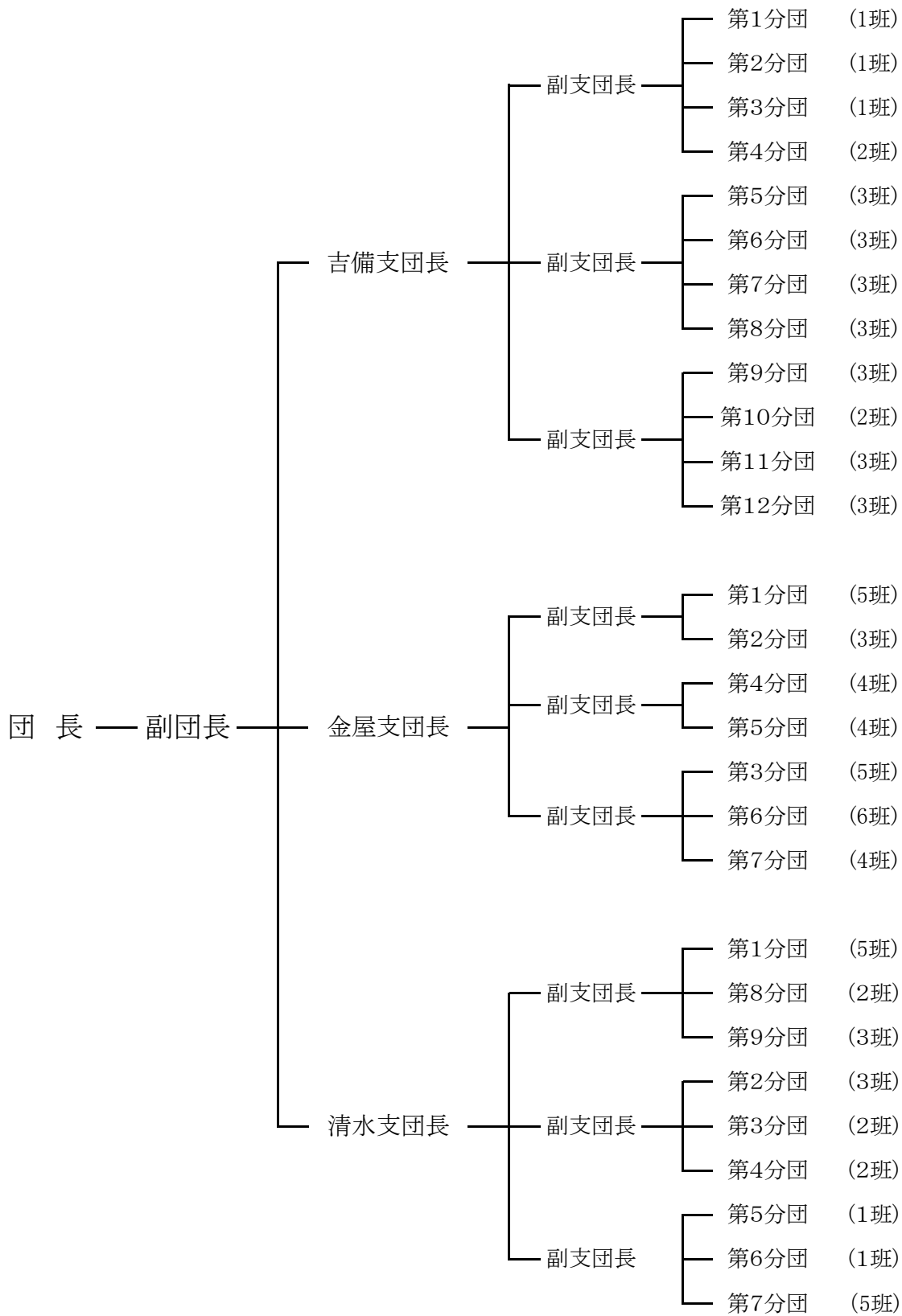
<旧清水町>

- 昭和14年 警防団施行令により、五村、城山村、安諦村、八幡村の4村で消防
組から警防団に改組
- 昭和22年 岩倉村(大字栗生)を含む5村が警防団から消防団に改組
- 昭和30年 城山村、安諦村、八幡村の3村が合併により清水町町制施行
清水町消防団発足
- 昭和34年 五村、岩倉村(大字栗生)が清水町に合併
- 平成18年 市町村合併により有田川町消防団に統合

<有田川町>

- 平成18年 吉備町、金屋町、清水町の合併で、有田川町消防団となる

消防団の組織



消防団員数及び装備状況

(令和3年12月31日現在)

消 防 団 員 条 例 定 数	950
消 防 団 員 実 員	919
消 防 ポ ン プ 自 動 車	5
小型動力ポンプ普通積載車	12
小型動力ポンプ軽積載車	68
小 型 動 力 ポ ン プ	83
消 防 団 指 揮 車	1

消防団員の勤続年数状況

(令和3年12月31日現在)

5 年 未 満	143
5 年 以 上 1 0 年 未 満	139
1 0 年 以 上 1 5 年 未 満	123
1 5 年 以 上 2 0 年 未 満	173
2 0 年 以 上 2 5 年 未 満	103
2 5 年 以 上 3 0 年 未 満	99
3 0 年 以 上	139
合 計	919

消防団員の階級別年齢状況

(令和3年12月31日現在)

階級 年齢	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員	合 計
18 才以上20才未満							0
20 才 " 22 才 "						1	1
22 才 " 24 才 "						1	1
24 才 " 26 才 "						1	1
26 才 " 28 才 "					1	6	7
28 才 " 30 才 "					2	10	12
30 才 " 32 才 "					1	7	8
32 才 " 34 才 "					1	10	11
34 才 " 36 才 "					1	27	28
36 才 " 38 才 "					3	28	31
38 才 " 40 才 "					3	35	38
40 才 " 42 才 "				2	2	45	49
42 才 " 44 才 "			1		8	38	47
44 才 " 46 才 "			2		5	56	63
46 才 " 48 才 "			2	2	7	44	55
48 才 " 50 才 "			2	3	7	59	71
50 才 " 52 才 "				1	4	52	57
52 才 " 54 才 "			1	5	5	53	64
54 才 " 56 才 "			1	3	10	37	51
56 才 " 58 才 "			1	4	5	41	51
58 才 " 60 才 "		1	3	2	10	34	50
60 才 以 上	1	12	15	6	16	173	223
合 計	1	13	28	28	91	758	919

消防団分団別人員及び車両配備状況

(令和3年12月31日現在)

団 員											車 両				
役職			団長	副団長	支団長	副支団長	分団長	副分団長	班長	団員	合計	消防 ポンプ 自動車	小型 ポンプ 積載車 (普通)	小型 ポンプ 積載車 (軽四)	合計
分団															
団本部		実員	1	1	3	9					14				
吉備支団	第1分団	実員					1	1	3	12	17	1			1
	第2分団	実員					1	1	3	12	17			1	1
	第3分団	実員					1	1	3	13	18			1	1
	第4分団	実員					1	1	4	13	19			2	2
	第5分団	実員					1	1	3	19	24			3	3
	第6分団	実員					1	1	3	19	24			3	3
	第7分団	実員					1	1	3	21	26			3	3
	第8分団	実員					1	1	3	18	23			3	3
	第9分団	実員					1	1	3	16	21			3	3
	第10分団	実員					1	1	2	12	16			2	2
	第11分団	実員					1	1	3	19	24			3	3
	第12分団	実員					1	1	3	16	21			3	3
金屋支団	第1分団	実員					1	1	5	66	73	2	2	2	6
	第2分団	実員					1	1	3	34	39	1	1	1	3
	第3分団	実員					1	1	5	49	56		1	4	5
	第4分団	実員					1	1	4	41	47		2	2	4
	第5分団	実員					1	1	4	49	55		2	2	4
	第6分団	実員					1	1	6	45	53	1	1	5	7
	第7分団	実員					1	1	4	36	42		2	2	4
清水支団	第1分団	実員					1	1	5	36	43			6	6
	第2分団	実員					1	1	3	23	28			3	3
	第3分団	実員					1	1	2	26	30			2	2
	第4分団	実員					1	1	2	24	28			2	2
	第5分団	実員					1	1	1	25	28			1	1
	第6分団	実員					1	1	1	19	22			1	1
	第7分団	実員					1	1	5	57	64			5	5
	第8分団	実員					1	1	2	25	29			2	2
	第9分団	実員					1	1	3	13	18		1	1	2
	計	実員	1	1	3	9	28	28	91	758	919	5	12	68	85
	定数		1	1	3	9	28	28	91	789	950				

消防団消防車両の現勢

(令和3年12月31日現在)

（令和5年12月31日現在）

支団名	分団名	班名	車					可搬ポンプ			
			種類	車名		年式	使用年数	メーカー名	級別	購入年	使用年数
吉備支団	消防本部		団指揮車	軽四	スバル	2011	10				
	第1分団	徳田(下・上・奥)・秋葉	ポンプ車	普通	トヨタ	2005	16				
	第2分団	庄一	積載車	軽四	ダイハツ	2014	7	トーハツ	B－2	2009	12
	第3分団	庄二	積載車	軽四	ダイハツ	2006	15	トーハツ	B－2	2006	15
	第4分団	垣倉・西・東丹生団	積載車	軽四	ダイハツ	2015	6	トーハツ	B－2	2009	12
		吉見	積載車	軽四	ダイハツ	2004	17	トーハツ	B－2	2006	15
	第5分団	天満班	積載車	軽四	ダイハツ	2008	13	トーハツ	B－2	2008	13
		小島班	積載車	軽四	ダイハツ	2012	9	トーハツ	B－2	2010	11
		野田班	積載車	軽四	スバル	2001	20	トーハツ	B－2	2009	12
	第6分団	奥班	積載車	軽四	ダイハツ	2015	6	トーハツ	B－2	2010	11
		植野班	積載車	軽四	ダイハツ	2006	15	トーハツ	B－2	2008	13
		熊井班	積載車	軽四	ダイハツ	2002	19	トーハツ	B－2	2014	7
	第7分団	水尻班	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B－2	2012	9
		明王寺班	積載車	軽四	ダイハツ	2016	5	トーハツ	B－2	2012	9
		土生班	積載車	軽四	ダイハツ	2003	18	トーハツ	B－2	2009	12
	第8分団	一ツ松班	積載車	軽四	ダイハツ	2006	15	トーハツ	B－2	2008	13
		北筋班	積載車	軽四	ダイハツ	2014	7	トーハツ	B－2	2009	12
		高瀬班	積載車	軽四	ダイハツ	2006	15	トーハツ	B－2	2008	13
	第9分団	長田班	積載車	軽四	ダイハツ	2008	13	トーハツ	B－2	2008	13
		角班	積載車	軽四	ダイハツ	2003	18	トーハツ	B－2	2008	13
		井口班	積載車	軽四	ダイハツ	2016	5	トーハツ	B－2	2010	11
	第10分団	田口班	積載車	軽四	ダイハツ	2012	9	トーハツ	B－2	2010	11
		大谷班	積載車	軽四	ダイハツ	2003	18	トーハツ	B－2	2010	11
		(元大賀畑班)						トーハツ	B－3	1993	28
	第11分団	賢班	積載車	軽四	ダイハツ	2015	6	トーハツ	B－2	2010	11
		田角班	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B－2	2008	13
		出班	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B－2	2009	12
		(元長谷班)						トーハツ	B－2	1992	29
	第12分団	船坂班	積載車	軽四	ダイハツ	2002	19	トーハツ	B－2	2009	12
		尾中班	積載車	軽四	ダイハツ	2014	7	トーハツ	B－2	2010	11
		上中島班	積載車	軽四	スバル	2001	20	トーハツ	B－2	2009	12

消防団消防車両の現勢

(令和3年12月31日現在)

令和5年12月31日現在

支団名	分団名	班名	車					可搬ポンプ			
			種類	車名		年式	使用年数	メーカー名	級別	購入年	使用年数
金屋支団	第1分団	金屋班	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2001	20
			ポンプ車	普通	三菱	1999	22				
		長谷川班	積載車	普通	三菱	2000	21	トーハツ	B - 2	2019	2
		中井原班	積載車	普通	三菱	2000	21	トーハツ	B - 2	2000	21
		市場班	ポンプ車	普通	三菱	2001	20				
		中野班	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2016	5
	第2分団	小川班	積載車	普通	三菱	2001	20	トーハツ	B - 2	2002	19
		吉田班	ポンプ車	普通	トヨタ	2007	14				
		伏羊班	積載車	軽四	ダイハツ	2011	10	トーハツ	B - 2	2012	9
	第3分団	丹生班	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	シバウラ	B - 2	2018	3
		糸野班	積載車	軽四	ダイハツ	2020	1	トーハツ	B - 2	2018	3
		黒松班	積載車	普通	三菱	2001	20	トーハツ	B - 2	2018	3
		下六川班	積載車	軽四	スズキ	2009	12	トーハツ	B - 2	2018	3
		上六川班	積載車	軽四	ダイハツ	2003	18	トーハツ	B - 2	2003	18
	第4分団	青田班	積載車	普通	三菱	2000	21	ラビット	B - 2	2005	16
		早月班	積載車	軽四	ダイハツ	2004	17	シバウラ	B - 2	2020	1
		生石班	積載車	普通	トヨタ	1997	24	トーハツ	B - 2	2012	9
		沼田班	積載車	軽四	ダイハツ	2005	16	トーハツ	B - 2	2006	15
	第5分団	中部班	積載車	軽四	ダイハツ	2015	6	トーハツ	B - 2	2014	7
		西ヶ峯上班	積載車	普通	三菱	1999	22	トーハツ	B - 2	2004	17
		西ヶ峯下班	積載車	軽四	ダイハツ	2020	1	シバウラ	B - 2	2020	1
		北班	積載車	普通	三菱	1998	23	トーハツ	B - 2	2001	20
	第6分団	吉原班	ポンプ車	普通	三菱	2000	21				
			積載車	軽四	ダイハツ	2020	1	シバウラ	B - 2	2020	1
		糸川班	積載車	軽四	ダイハツ	2016	5	ラビット	B - 2	2005	16
		修理川班	積載車	普通	三菱	1999	22	トーハツ	B - 2	2004	17
		宇井苔班	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	シバウラ	B - 2	2018	3
		松原班	積載車	軽四	ダイハツ	2009	12	トーハツ	B - 2	2006	15
		歓喜寺班	積載車	軽四	ダイハツ	2021	0	シバウラ	B - 2	2021	0
	第7分団	峯口1班	積載車	軽四	ダイハツ	2019	2	シバウラ	B - 2	2019	2
		峯口2班	積載車	普通	三菱	2002	19	トーハツ	B - 2	2000	21
		谷班	積載車	軽四	ダイハツ	2021	0	トーハツ	B - 2	2021	0
		立石班	積載車	普通	三菱	2002	19	トーハツ	B - 2	2000	21

消防団消防車両の現勢

(令和3年12月31日現在)

支団名	分団名	班名	車					可搬ポンプ			
			種類	車名		年式	使用年数	メーカー名	級別	購入年	使用年数
清水支団	第1分団	第1班(二川)	積載車	軽四	ダイハツ	2001	20	トーハツ	C - 1	2017	4
			積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
		第2班(東大谷)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
		第3班(日物川)	積載車	軽四	ダイハツ	2005	16	トーハツ	B - 2	2005	16
		第4班(境川)	積載車	軽四	ダイハツ	2008	13	トーハツ	B - 2	2008	13
		第5班(三瀬川)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
	第2分団	第1班(楠本)	積載車	軽四	ダイハツ	2014	7	トーハツ	B - 2	2014	7
		第2班(沼)	積載車	軽四	ダイハツ	2001	20	トーハツ	B - 2	2001	20
		第3班(遠井)	積載車	軽四	ダイハツ	2000	21	トーハツ	B - 2	2000	21
	第3分団	第1班(三田)	積載車	軽四	ダイハツ	2006	15	トーハツ	B - 2	2005	16
		第2班(宮川・大蔵)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
	第4分団	第1班(清水)	積載車	軽四	ダイハツ	2017	4	トーハツ	B - 2	2017	4
		第2班(清水)	積載車	軽四	ダイハツ	2006	15	トーハツ	B - 2	2006	15
	第5分団	第1班(久野原・室川)	積載車	軽四	ダイハツ	2021	0	シバウラ	B - 2	2021	0
	第6分団	第1班(下・上湯川)	積載車	軽四	ダイハツ	2004	17	トーハツ	B - 2	2004	17
								トーハツ	C - 1	1993	28
	第7分団	第1班(板尾)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
		第2班(杉野原)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
		第3班(押手)	積載車	軽四	ダイハツ	2005	16	トーハツ	B - 2	2005	16
		第4班(沼谷)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
		第5班(井谷)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
	第8分団	第1班(栗生)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14
		第2班(栗生)	積載車	軽四	ダイハツ	2018	3	シバウラ	B - 2	2018	3
	第9分団	第1班(中原) 第2班(川合)	積載車	普通	トヨタ	1998	23	シバウラ	B - 2	2018	3
		第3班(北野川・二澤)	積載車	軽四	ダイハツ	2007	14	トーハツ	B - 2	2007	14

消防団消防車両等経過年数

(令和3年12月31日現在)

区分 \ 経過年数		1年未満	1年以上	2年以上	3年以上	4年以上	5年以上	6年以上	7年以上	8年以上	9年以上	10年以上	11年以上	12年以上	13年以上	14年以上	15年以上	16年以上	17年以上	18年以上	19年以上	20年以上	21年以上	22年以上	23年以上	24年以上	25年以上	合計
消防本部	消防団指揮車										1																	1
吉備支団	消防ポンプ自動車																1											1
	小型動力ポンプ積載車(普通)																											
	小型動力ポンプ積載車(軽四)						2	3	3		2				2	3	4		1	3	2	2						27
	小計						2	3	3		2	1			2	3	4	1	1	3	2	2						29
	小型動力ポンプ								1		2		7	8	7		2										2	29
金屋支団	消防ポンプ自動車															1						1	1	1				4
	小型動力ポンプ積載車(普通)																				2	2	3	2	1	1		11
	小型動力ポンプ積載車(軽四)	2	3	1			1	1				1		2		4		1	1	1								18
	小計	2	3	1			1	1				1		2		5		1	1	1	2	3	4	3	1	1		33
	小型動力ポンプ	2	3	2	5		1		1		2						2	2	2	1	1	2	3					29
清水支団	消防ポンプ自動車																											
	小型動力ポンプ積載車(普通)																								1			1
	小型動力ポンプ積載車(軽四)	1				1	1			1						1	10	2	2	1			2	1				23
	小計	1				1	1			1						1	10	2	2	1			2	1		1		24
	小型動力ポンプ	1				2	2			1						1	10	1	3	1			1	1				1
消防車両合計		3	3	1	1	1	3	4	4		2	2		2	3	18	6	4	3	4	4	7	5	3	2	1		86
小型動力ポンプ合計		3	3	2	7	2	1	0	3	0	4	0	7	8	8	10	5	5	3	1	1	3	4	0	0	0	3	83

消防団員出動状況

(令和3年中)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
火災	件 数	2	2		2	1	1			1	1	1	2	13
	出動人員	92	80		234	68	70			80	55	67	100	846
水防・警戒	件 数				4	6	3		3					16
	出動人員				12	13	12		4					41
訓練	件 数									1	1	1		3
	出動人員									16	23	12		51
研修	件 数										2	1		3
	出動人員										33	22		55
点検	件 数						1							1
	出動人員						61							61
防火訪問	件 数											1		1
	出動人員											261		261
防火パレード	件 数											1		1
	出動人員											30		30
年末警戒	件 数												2	2
	出動人員												343	343
捜索・救助	件 数		2											2
	出動人員		33											33
その他	件 数	1												1
	出動人員	42												42
合計	延件数	3	4	0	6	7	5	0	3	2	4	5	4	43
	延出動人員	134	113	0	246	81	143	0	4	96	111	392	443	1,763

発行・編集

令和3年版消防年報

有 田 川 町 消 防 本 部

〒643-0811

和歌山県有田郡有田川町庄1042番地

TEL 0737-52-5950

FAX 0737-52-5952

e-mail : fire119@town.aridagawa.lg.jp